

始



清水市の産業
清水市役所編

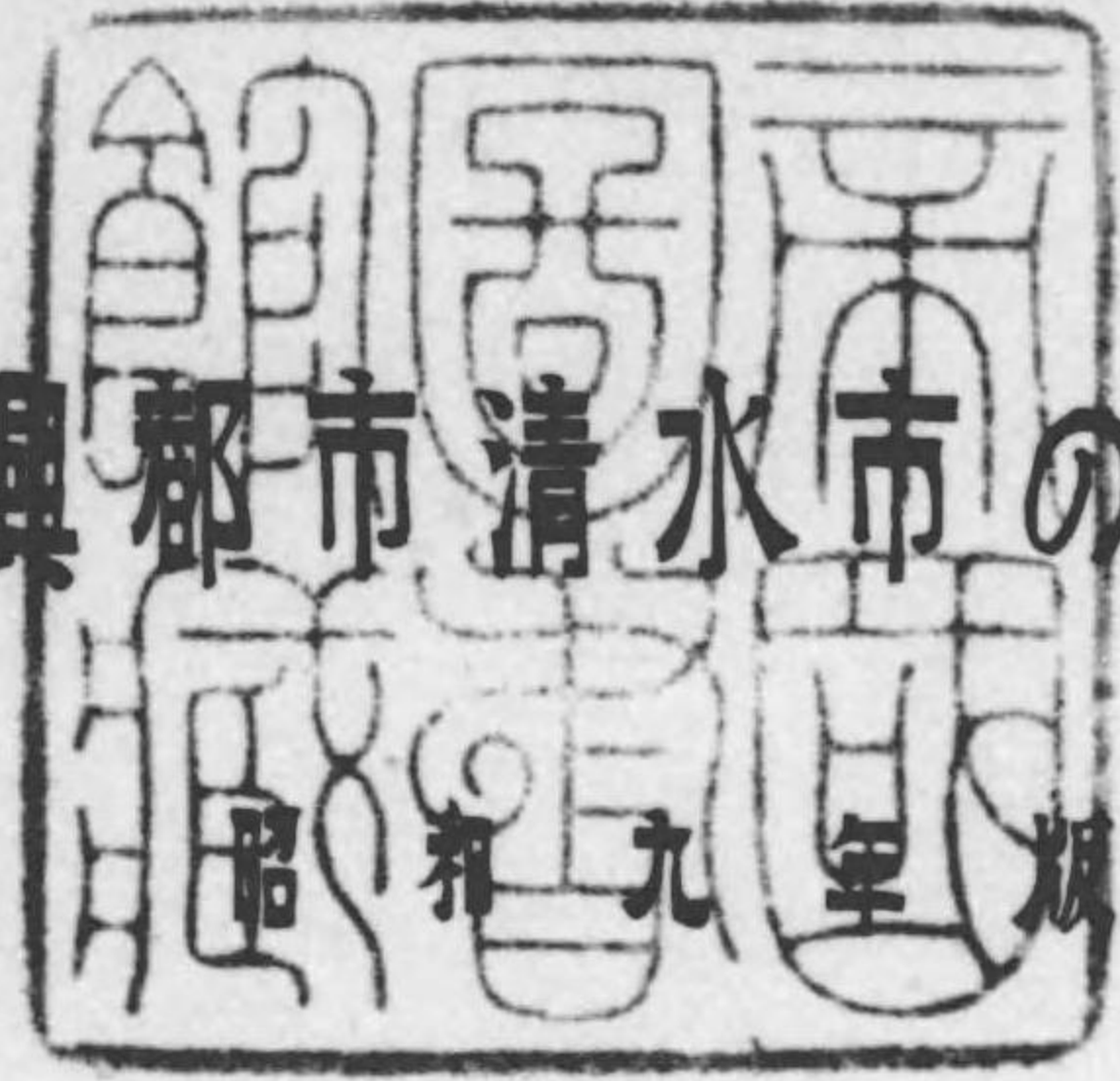
14.2。
328

昭和九年版
清水市の産業



清水市役所

新興都市清水市の産業



清水市役所



業武



武庫



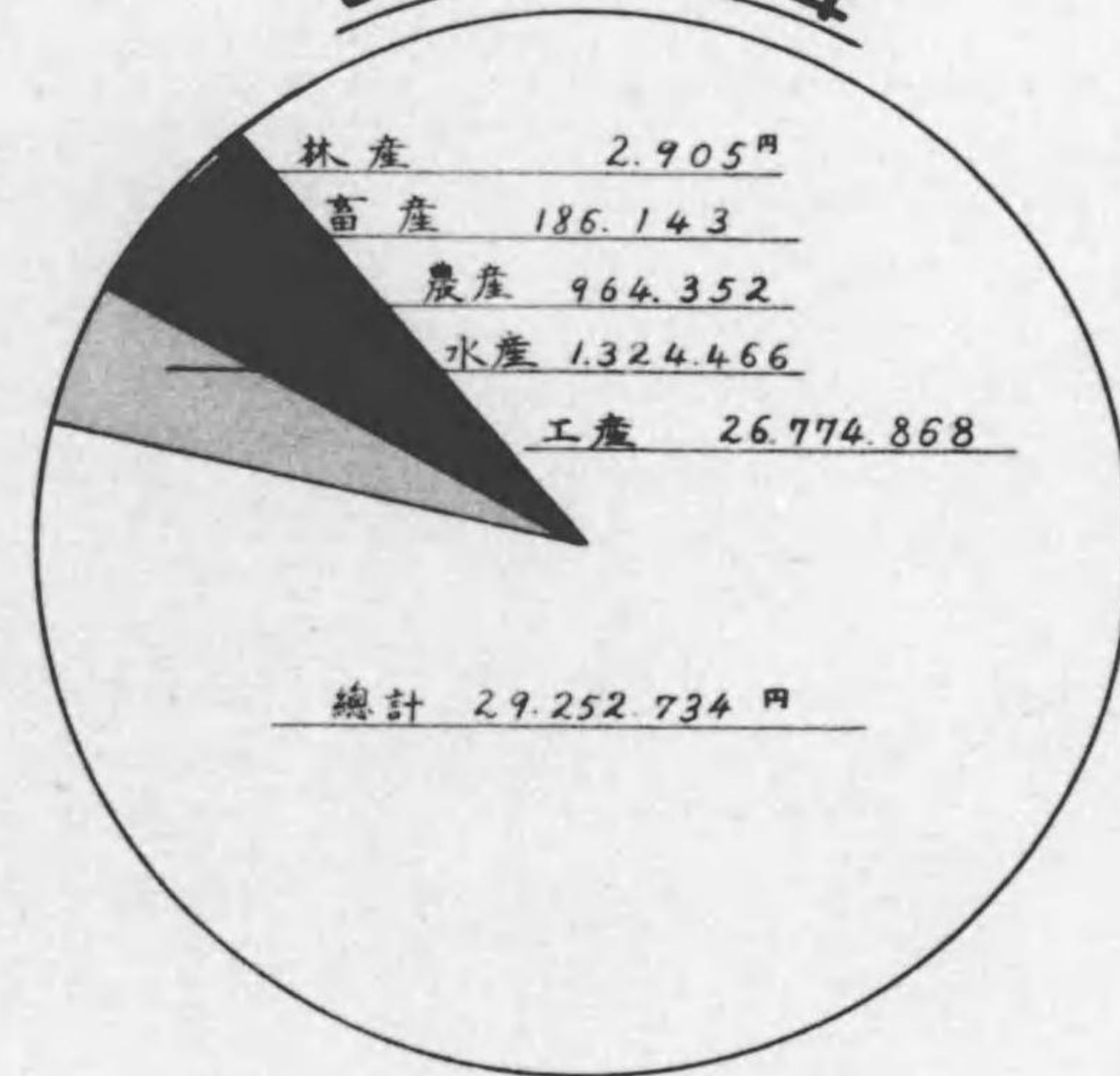
第 1 表

生 產 物 總 價 額

(大正 13 年 (市制施行) 以降)

大正			
13	19,443,840 円		
14	25,482,743		
15	26,157,123		
昭和			
2	21,564,376		
3	24,071,404		
4	27,712,969		
5	22,472,705		
6	20,708,986		
7	23,442,438		
8	29,252,734		
	100 万円	1,000 万円	2,000 万円
			3,000 万円

昭 和 8 年



第 2 表

主要產物價額

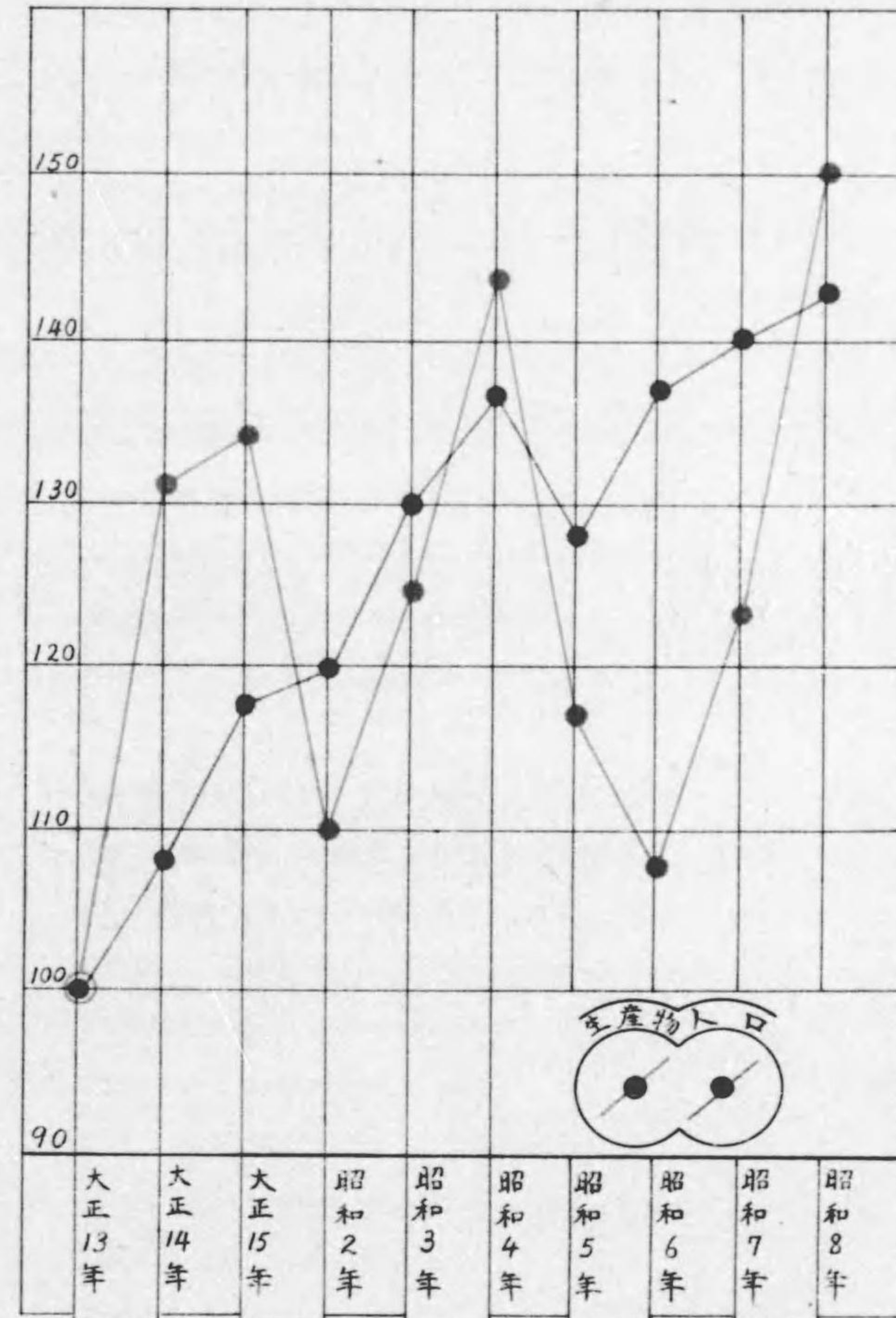
昭和 8 年

品名	1万円	50万円	100万円	150万円	200万円	
大豆粕	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					6284250
罐詰類	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					5541280
製材品	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					5256705
大豆油	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					4667620
西洋紙	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					1140448
機械類	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					402760
船舶	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					400000
塗料	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					378000
再製塩	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					315650
木製品	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					271718
苺	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					264000
米	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					213225
製氷	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					155037
鯉節	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					146000
清酒	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					145000
菓子	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					130582
紙製品	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					108000
醬油	[Horizontal bar chart showing production volume across price categories]					106500

(生産額十万円以上)

第 3 表

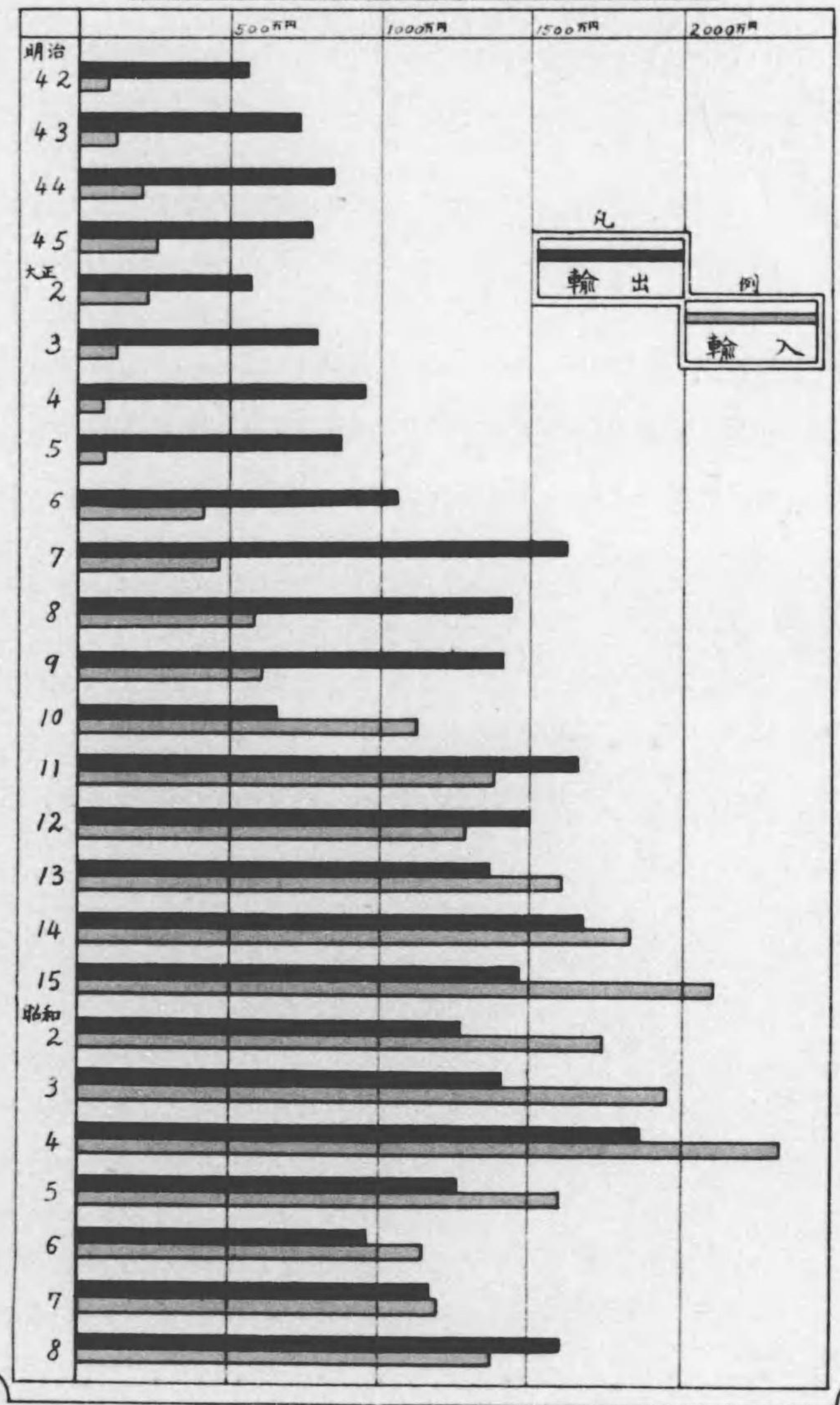
人口と生産物、指数比較表



注 昭和2年、全國未曾有の金融恐慌

第 4 表

清水港貿易額比較表 (明治 42 年以降)



第 5 表

昭和7年ニ於ケル清水港ト各港貿易額

昭和7年

十円以下四捨五入

港名	輸										出													
	0	1億円	2"	3"	4"	5"	6"	7"	8"	9"	10"	0	1億円	2"	3"	4"	5"	6"	7"	8"	9"	10"		
神 戸	[Bar]										53	8.5	78	千円										
横 濱	[Bar]										40	6.5	20											
大 阪	[Bar]										35	1.0	48											
名 古 屋	64.63	1																						
門 司	45.83	3																						
小 樽	15.20	5																						
函 館	11.8	34																						
清 水	11.6	25																						
若 松	7.7	85																						
三 池	6.6	57																						
長 崎	6.1	97																						
四 日 市	3.4	38																						
青 森	2.5	69																						
下 関	1.9	80																						
敦 賀	1.8	66																						
單位	0	1億円	2"	3"	4"	5"	6"	7"	8"	9"	10"													
港名	輸										入													
	0	1億円	2"	3"	4"	5"	6"	7"	8"	9"	10"	0	1億円	2"	3"	4"	5"	6"	7"	8"	9"	10"		
神 戸	[Bar]										57	3.6	61	千円										
横 濱	[Bar]										36	1.2	16											
大 阪	[Bar]										28	0.0	80											
名 古 屋	69.60	8																						
門 司	46.29	3																						
若 松	23.7	53																						
德 山	17.5	30																						
函 館	16.17	8																						
四 日 市	15.60	9																						
武 豊	12.35	4																						
清 水	11.78	4																						
長 崎	10.22	7																						
新 潟	7.3	23																						
糸 崎	6.8	54																						
單位	0	1億円	2"	3"	4"	5"	6"	7"	8"	9"	10"													

本邦港湾数 1,463. 内外国貿易港42

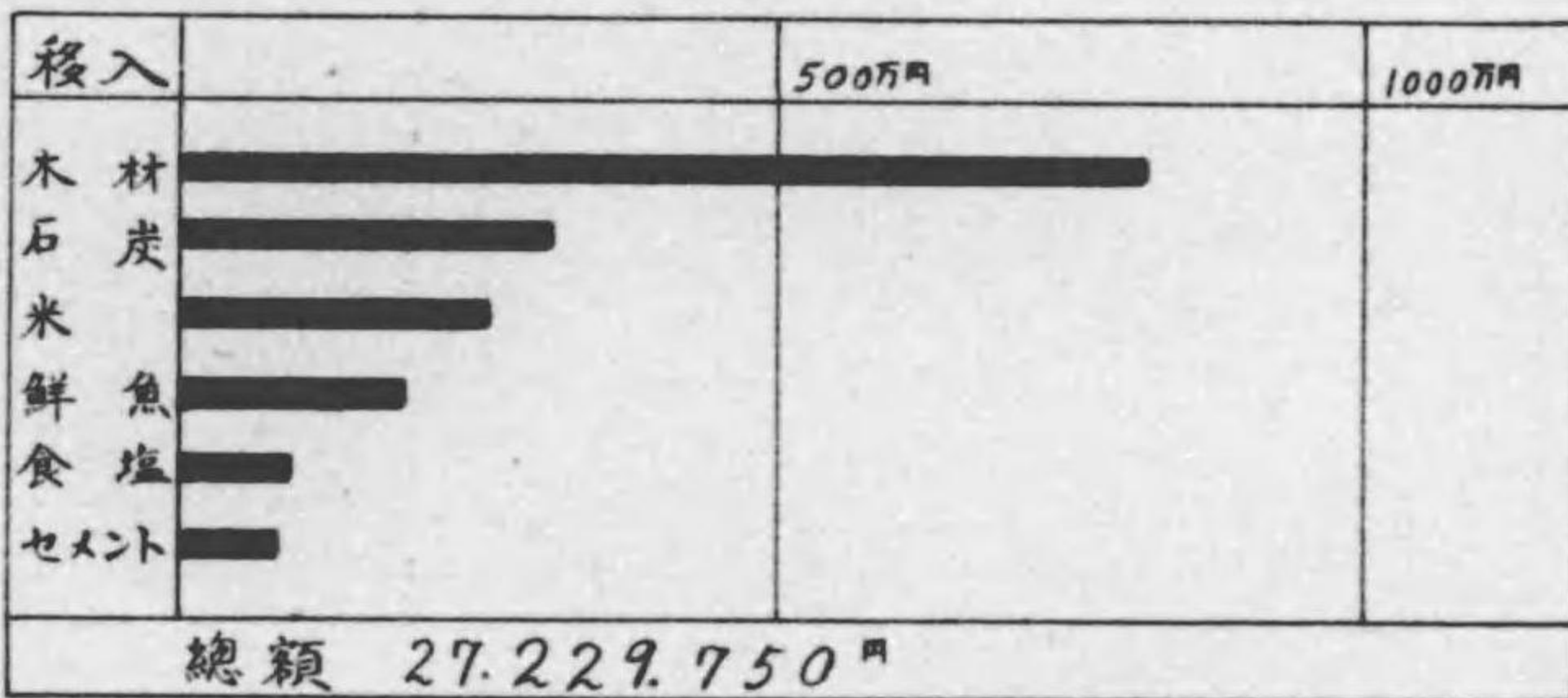
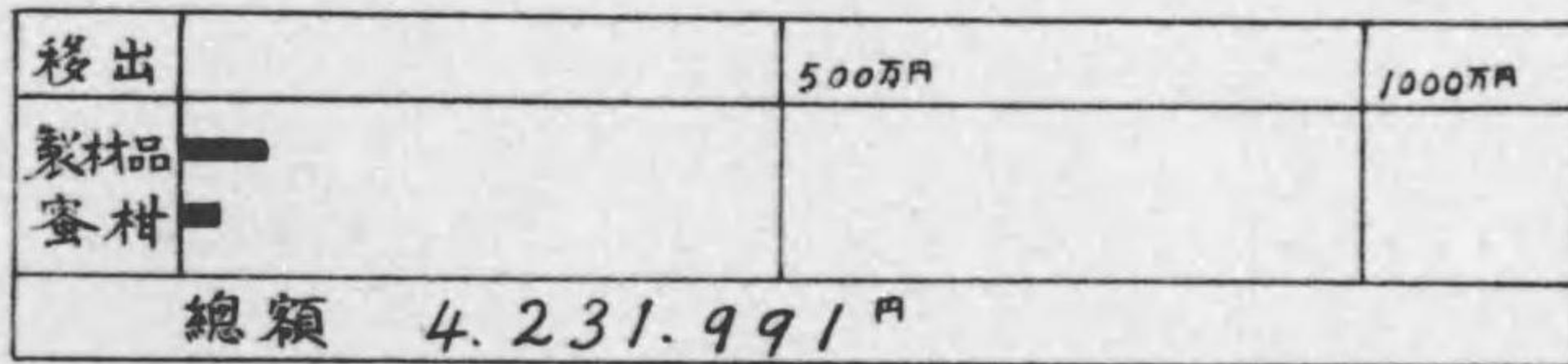
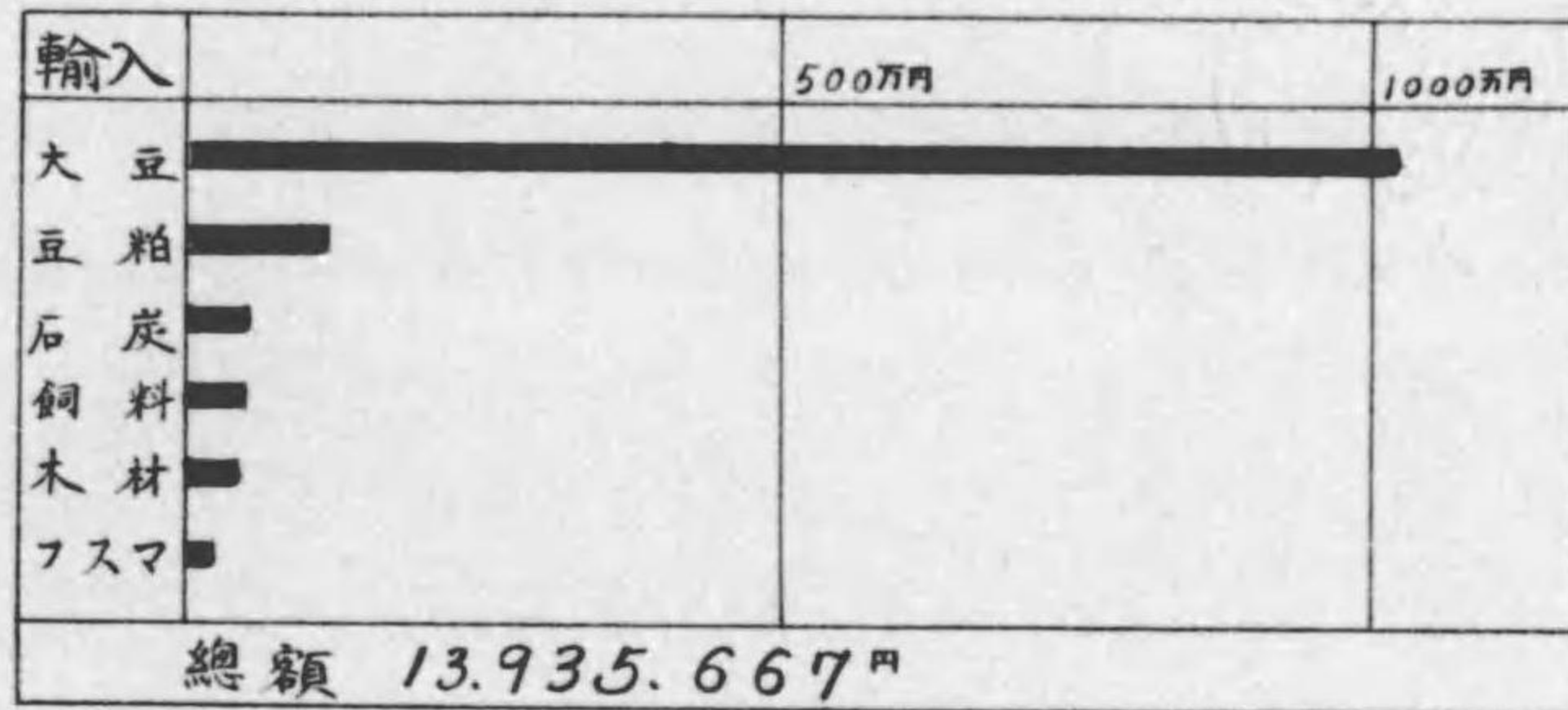
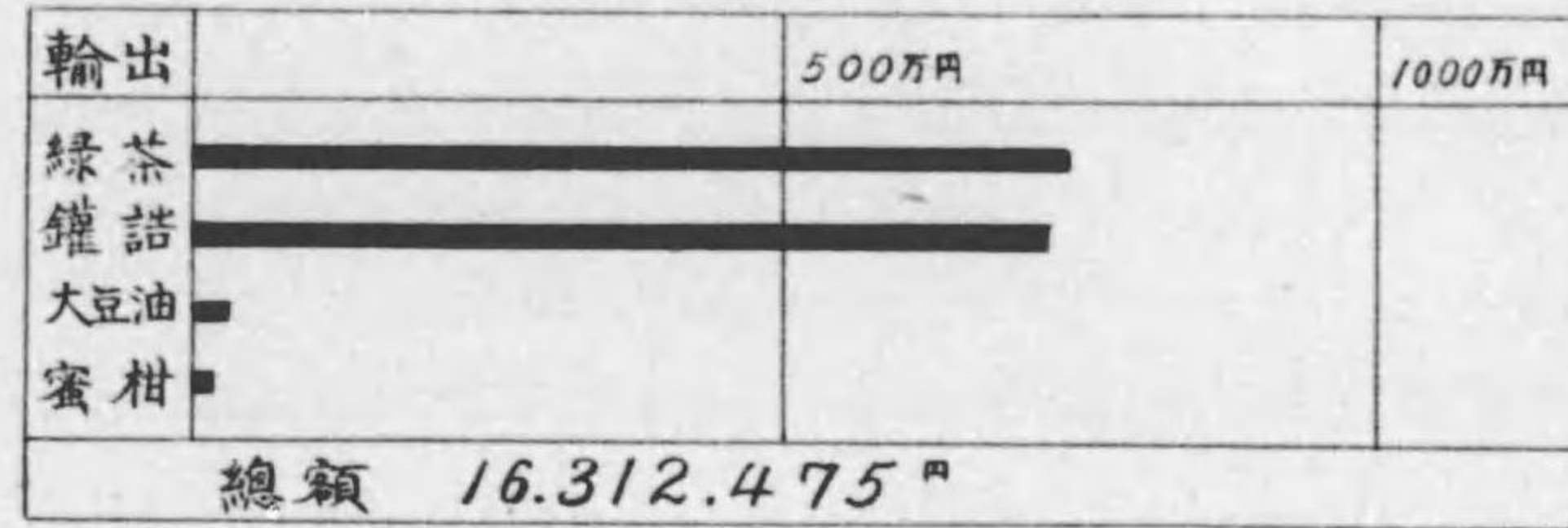
昭和7年ニ於ケル清水港貿易額ハ

輸出……全國第8位 輸入……第11位

第 6 表

清水港主要貨物輸移出入狀況

(昭和 8 年)



14.2-328

凡 例

- 本書は昭和八年調査に係る本市産業統計及其他の資料を基礎として之に既往3ヶ年分の統計を列記して、本市産業全般の動静を示したるものである
- 本書を分ちて總説、農業、畜産業、林産業、水産業、工業、商業、運輸、交通附録、の九部となし各部の冒頭に夫々概説を附したり尙、清水港設備と當市第一期都市計畫事業とを中心とした地圖を添付した
- 本書中何年とあるは暦年にして、何年度とあるは會計年度である
- 本書統計に用ひたる數量單位は不統一を免れず、近き將作に於て「メートル」法に統一したいものと思ふ
- 本書登載の計數は概ね一位に止め、以下の端數は四捨五入するを例としたが、一位未滿の端數を知る必要あるものは之を掲げ「**・**」を附した又千位、百萬位には「**・**」を附すべきだが種々の都合上同じく「**・**」を附したが、讀者は容易にその區別を知るであらう
- 本書に付て種々誤謬、不満足の點があらふと思ふ、幸に讀者の叱正を待ち、逐年補筆訂正して完全を期したい
- 尙附録として**清水市近郊案内記**を編纂し、清見湯一帶の概説を初め、三保松原大俠次郎長の墓、龍華寺、鐵舟寺、日本平、久能山、興津等の遊覽案内を掲げた

清水市の産業

1 總 說

1 地勢及び人口	1
2 沿革	1
清水市の現状	1
都市計畫の實施	2
上水事業の概況	3
3 産業總說	4
職業別戸數	4
生産物總價額	5

2 農 業

1 概 說	5
2 農業戸數及人口調	5
3 耕地面積	6
4 米麥其他食用農産物	6
5 園藝農産物	6
6 果 實	8
7 茶 業	8
8 蠶 絲	8
其 1	8
其 2	8

3 畜 産 業

1 概 說	9
2 畜産及總額	9
3 家 畜	10
4 家 禽	10
5 牛 乳	10

4 林 産 業

1 概 說	11
2 林産及び林野産物	11

5 水 産 業

1 概 說	11
2 水産漁獲物	12
3 水産製造物	12
4 水産養殖物	13

6 工 業

1 概 說	13
2 工場總覽	
其 1	15
其 2	16 23
2 工業製品	22 24

7 商 業

1 概 說	
清水市交易の沿革	25
清水港内外貿易	25
倉庫回漕	27
會社金融	27
2 清水港内外貿易	28 29
3 主要貨物輸出入狀況	28 31
4 主要貨物移出入狀況	28 31
5 清水港輸出入國別表	30 33
6 銀行	32 33
7 貯 金	34 35
8 質屋貸金	34 35
9 産業組合	34 35
10 手形交換所	34 35
11 會社總覽	
其 1	36 37
其 2	36 37
其 3	38 53

8 運輸交通 附電氣瓦斯

1 概 説	清水港	54
	鐵道	55
	電氣鐵道及乗合自動車	55
2 道 路		55
3 諸 車		55
4 汽 車		56 57
5 電 車		56 57
6 船 舶		56 57
7 外國貿易出入船舶		58 59
8 入港船舶噸數階級別		58 59
10 通 信		60
11 電 氣		60
	1 電 燈	60
	2 電 力	60
	3 瓦 斯	60

9 附 録

1 市 の 財 政	62
2 諸 税 負 擔 總 額	62
3 職 業 紹 介 所 成 績	62
4 清 水 市 勤 業 諸 費	62
5 清 水 港 收 入 比 較 入	64
6 度 量 衡	64
7 縣 下 四 市 市 勢 比 較 表	64

清水市近郊案内記	1 12
----------	------



(1) 地勢及び人口

清水市は静岡縣のほぼ中央に位し（東經138度31分52秒 北緯35度0分52秒）東西1里6町、南北2里3町、面積1.085方里あり、東に清水港を抱き駿河灣の西端を扼し、西に有度山を経て静岡と連絡し西側の沃野は益々接壤發展して隣村との境界辨じ難き程である

若し夫れ交通の利便に至つては、當市江尻驛は東海道線主要驛として6哩の西方には静岡驛を控へて關西と呼應し、東方は函嶺を越えて關東に至り、中間富士驛より分岐せる富士身延鐵道に依つて日本海沿岸の各地と聯絡する

清水港は神戸、横濱兩港の中間に介在するを以て内外諸港との間に物資の集散頻繁を極め常に船舶輻輳し實に當市は海陸交通の要衝と云はれてゐる

尙、當市の人口は下表の示す如く漸増の傾向を辿り、本年度に於ては6萬を超過するに至つた

年 度	世帯數	現 住 人 口			男 100 1 戸		本 籍 人 口 動 態				
		男	女	計	に付女	平均	婚姻	離婚	出生	死亡	死産
昭和8年	11,339	31,228	30,467	61,695	97.6	5.08	510	61	1,605	833	103
昭和7年	11,279	30,661	29,928	60,589	97.6	5.15	591	57	1,590	757	100
昭和6年	11,458	30,006	29,290	59,266	97.5	5.17	353	46	1,592	723	108

(2) 沿 革

本市は大正13年2月11日、庵原郡江尻町、辻町、安倍郡清水町、入江町、不二見村、三保村の4ヶ町2ヶ村の合併によつて市制を施行されて今日に至つたものである

清水港の現状
清水港は三保岬の自然の防波堤に抱かれ市内を貫流する巴川は又天然の運河を成し、水陸交通の便あるを以て早くより船舶輻輳し、明治32年8月開港場に指定せられ越えて全40年10月内務省より第二種重要港灣に選定せられてより種々港灣設備改良に努める處があつた、即ち静岡縣は工費46萬5千余圓を以て、明治42年第一次修築工事を起工し、大正3年竣工を告げたるも、その後益々膨漲發展に伴ひ次表の如く工事を繼續するに至つた

第2次清水港修築工事概況

工事期間	工費	進行	備考
自大正10年至昭和9年	5,500,000	繼續	静岡縣工事
全	485,000	完成	鐵道省經營岸壁工事
全	677,000	繼續	縣管貝嶋埋立工事
自大正15年	2,000,000	進行中	陸上諸設備
自昭和2年	450,000	繼續	貯木場(防波堤のみ4年度完成)
自昭和4年至9年	1,800,000	進行中	帝國議會の協賛を経たる擴張工事
自昭和6年至8年	620,000	工事中	震災復舊工事
計	11,532,000		

即ち、清水港修築工事費は千萬圓を越えてゐるが、今全國の第一種重要港灣(8港)及第二種重要港灣(31港)の總工費の平均をとると880萬圓であるのに比し當港はそれより2百萬圓以上を費してゐる、こゝを以て見ても如何に政府が重大視してゐるか判るのだが、今神戸、横濱のそれに比すると前者は3千萬圓、後者は5千5百萬圓を費してゐる

清水港は港内面積319萬坪を有し、港内の水深24尺以上を有する水面122萬坪あり、前掲工事竣工の曉には岸壁延長423間2萬噸級2隻、8,000噸級1隻、3,000噸級2隻、又鐵道省専用岸壁146間には3,000噸級2隻を全時に接岸し得ることになる、又折戸灣内は約66,300坪の水面を水深24尺に浚渫し、繫船浮標4個を設備し各3,000噸級の汽船を投錨せしむることになる、これらの諸設備完成の曉には本港は我邦屈指の良港たることを得るであらう

尙昭和4年4月より清水市に清水港務所を置き、岸壁上屋其他の港灣設備の維持管理及施設其他の事項を取扱ひ同時に下記の繫船岸壁及上屋の供用を開始した

3千噸級岸壁延長 124間(水深24尺)

上屋間口39間奥行14間、此坪數546坪のもの2棟

昭和5年1月9日8千噸級繫船岸壁供用開始す

巴川岸より通計209間

昭和5年2月1日より東海道線清水港驛より清水埠頭驛に至る鐵道に於て貨取扱及び1車積特種貨物運輸營業を開始し尙昭和8年7月より一般小口發送貨物をも取扱つて居る、但し貨物の集貨はしないことになつてゐる

都市計畫の實施

清水市都市計畫第一期事業には江尻驛と築港埠頭との二中心を聯絡する路線を基準として樹立せられた

第1期 都市計畫街路工事 (昭和3年-8年)

路線名	數	幅員	延長	事業費
(1) 大曲 波止場線	1	12.0	1,452	1,176,019
(2) 村松 折戸線	1	10.0	755	255,947
(3) 折戸 三保眞崎線(一部)	1	8.0	1,758	24,4430
(3) 折戸 三保眞崎線(殘部)	1	6.0	545	52,401
(4) 折戸 蛇塚線	1	8.0	338	51,832
(5) 駒越 横砂線(一部)	1	8.0	542	297,135
(6) 大曲 大正橋線	1	8.0	441	236,635
(7) 上清水 船越線	1	6.0	725	93,144
(8) 龍華寺 平川地線(一部)	1	6.0	1,113	123,873
計	8	-	7,669	2,534,416

面積百分比表

時期	利用面積				其他	總面積
	道路	耕地	宅地	計		
現在	137,940	749,292	3,726,300	4,613,532	2,593,468	7,207,000
百分比	2%	10%	52%	64%	36%	

備考 都市計畫區域内の總面積(清水市、有度村、高部村、飯田村、袖師村)は16,925,000坪、その内利用面積は9,965,000坪になる豫定

この工事竣工の曉には清水港は益々その機能を發揮し、折戸灣沿岸は工場地として更に開發され、又三保名勝一帯は益々遊覽客に便利を供するに至り、市内の殷盛を誘致するは明かである

上水道事業概況

本市に於ては夙に市民の保健、衛生、産業振興、火災防禦及び港灣都市としての船舶給水等現代都市に於ける文化的施設として上水道の布設を企畫し、大正14年1月機關を設けて慎重調査を遂げ、水源を庵原郡を貫流する興津川の河水に求め、取水口を全川上流の兩河内村字清地に設けて、自然流下式に依り給水人口10萬人最大給水量1人1日平均5.5立方尺給水區域は市内全体の計畫の下に昭和5年8月工を起し、昭和8年3月全工事(水源池、淨水場、伏流唧筒場及送水管並配水管管理設工事等)の完成を告げて清冽玉の如き淨水を豊富に市内に送ることを得るに至つた面して給水事務は市民の期待に添ふべく特に布設工事完了前即ち昭和6年11月より給水申込受付を開始し直ちに給水引込工事を實施して、通水準備を進め、昭和7年4月より全市に給水を開始した、因に目下市内配水管管理設總延長は64,192米、消火栓數は441で最近1ヶ月の總水量は270,260立方尺を示す、又船舶給水は全年

7月より清水港岸壁に假事務所を設け寄港船舶に對して直接給水を開始した、而して給水使用普及宣傳獎勵に付ては獎勵金交付規程を設けて獎勵金を交付し、或は工事費補助割戻其他數回に亘り特典募集を爲し又使用者慰安會を催す等種々方法を構じた結果大体豫定の給水戸數を得るに至り現在の普及歩合は30%に達するに至つた

今昭和9年5月末の使用戸數及使用料を示せば次の通りである

給水の概況

種別	給水戸數	1ヶ月給水料金
定額給水	1,717	2,256
計量給水	646	3,018
共同給水	463	246
使用料前納金	—	113
計	2,826	5,633
船舶給水	—	418
合計	—	6,051

(3) 産業總説

本市の産業は、海運の至便と氣候の快適とにより逐年發達の傾向を辿り、市制施行當時(大正13年)の生産總額は1千9百44萬圓にすぎなかつたところ、昭和8年に至つては2千9萬百圓に騰つた

今大正13年の人口指數及び生産總額指數を100として既往10ヶ年の消長を記せば下記の如くである

	人口指數	生産總額指數
大正13年	100	100
全 14年	108	131
全 15年	117	134
昭和 2年	120	110
全 3年	130	124
全 4年	136	143
全 5年	128	116
全 6年	137	107
全 7年	140	123
全 8年	143	150

之を見るとき昭和2年の全國的金融恐慌を除き、本市が如何に堅實な發達を示しつつあるか判る、昭和3年の全國109市の統計に依ると、本市は101番目に市制を施行されたに拘らず、人口順位は57番目、生産總額順位は38番目であつた
又近年事業の經營は個人より法人にうつり大正13年當市に本店を有する會社は僅に53であつたが昭和8年には108となりその投下資本額は9,081,748圓に達した
今産業各論にうつる前に職業別戸數、生産總價額の統計を示せば下表の如くである、各産業に就ては以下の各項に依つて参照されたい

職業別戸數

年次	農業	水産業	工業	鑛業	商業	交通業	公務自由業	其ノ他有職者	家事使用人	無職	計
昭和8年	1,613	309	2,767	—	3,169	1,060	725	924	15	757	11,339
昭和7年	1,602	310	3,149	—	3,132	1,319	759	483	10	524	11,279
昭和6年	1,469	409	1,442	25	3,897	427	690	2,554	95	450	11,458

生産物總價額

年次	農業	水産	畜産	林産	工産	計	現住1戸當	現住1人當
昭和8年	964,352	1,324,466	186,143	2,905	26,774,868	29,252,734	2,406	474
昭和7年	946,350	1,069,494	186,723	3,458	21,736,413	23,942,438	2,034	395
昭和6年	738,276	1,630,859	199,928	2,065	18,136,958	20,708,986	1,807	349

2 農 業

(1) 概 説

如何なる都市と雖もその商工業の發展に伴ひ、耕地は次第に宅地、工場地に變じ、農業專業者は兼業に、兼業者は他業に轉じて、耕地面積の減少と共に農産物の漸減を來すを原則としてゐる、本市もその例にもれずこの傾向を辿るとは云へ市制施行は大正13年、4ヶ町2ヶ村の合併によるもので、面積は人口數に比して他都市より遙かに多く(濱松市より0.74方里大 沼津市の約2倍)従つて耕地面積にも農業戸口にも急激なる變化を見なく、農業より他業に轉業するものは極めて僅少である、従つて生産物も價額に於ては増減あるも生産高は大差ない

これ等の理由は、本市は米麥其他の食用農産物よりむしろその温氣なる氣候を利用して、イチゴ、ミカン、ナシ、トマト、キウリ等の果實蔬菜の栽培を獎勵し又これらの生産の確實は容易に轉業を免れてゐるからである

然し當市の人口増加率は極めて順調であり、大正13年市制施行當時の人口指數を100とすれば、それより10年後の昭和8年は143で、かゝる人口増加は勢ひ商工業を股勢ならしめて新事業の勃興と共に耕地面積の漸減を來すことは自明の理である

現在に於て本市農業を代表する物産は米、茶、柑橘、蔬菜等であつて蔬菜にあつてはトマト、キウリ、枝豆等の促成早熟品及石垣苺を主とするものであつて、耕地の縮少は總の蔬菜園藝の急進發展を示しつつある

(2) 農業戸數及び人口調

年次	戸數	本業				副業		計		自作人及小作人			
		男	女	男	女	男	女	計	自作	自兼小	小作	計	
昭和8年	1,613	3,143	1,663	465	229	3,608	1,892	5,500	1,362	2,452	1,686	5,500	
昭和7年	1,602	3,158	1,665	450	227	3,608	1,892	5,500	1,362	2,452	1,686	5,500	
昭和6年	1,469	3,163	1,665	445	227	3,608	1,892	5,523	1,354	2,448	1,698	5,500	

(3) 耕地面積

年次	田	畑	計
昭和8年	4.177 ^反	6.972 ^反	11.149 ^反

(4) 米麥其他食用農産物

種別	昭和8年					昭 作 反
	作 反	收穫高	價額	一反歩 收穫高	單價	
米	4.125 ^反	11.172 ^石	213.225 ^円	2.585 ^合	19.08 ^円	4.322 ^反
麥	1.945	2.997	42.037	1.541	14.28	2.195
ソバ	40	40	320	1.000	8.00	40
サツマイモ	1.100	330.000 ^貫	29.700	300 ^貫	9	1.250
ジャガイモ	180	72.000 ^石	15.840	400 ^合	22	150
其他	72	49 ^石	1.048	681 ^合	21.41	77
計	7.462	14.258 ^石 402.000 ^貫	302.170	—	—	8.034

(5) 園藝農産物

種別	昭和8年					昭 作 反
	作 反	收穫高	價額	一反歩 收穫高	單價	
キウリ	25 ^反	12.500 ^貫	5.000 ^円	500 ^合	40 ^円	25 ^反
カボチャ	40	16.000	2.400	400	15	40
スイカ	180	65.700	16.425	365	25	190
ナス	80	40.000	8.000	500	20	80
エンドウ	250	250 ^石	5.000	1.000 ^合	20 ^{升當り}	200
トマト	400	200.000 ^貫	56.000	500 ^貫	28	350
ナマダイコン	400	480.000	38.400	1.200	8	400
ニンジン	10	4.000	800	400	20	15
タマネギ	300	135.000	24.300	450	18	250
サトイモ	350	140.000	35.000	400	25	400
インゲン豆	250	325 ^石	6.500	1.300 ^合	20 ^{升當り}	250
其他	262	—	19.815	—	—	285
計	2547	575 ^石 1.093.000 ^貫	217.640	—	—	2.485

和7年				昭和6年			
收穫高	價額	一反歩 收穫高	單價	作 反	收穫高	價額	一反歩 收穫高
12.101 ^石	254.705 ^円	2.800 ^合	21.05 ^圓	4.352 ^反	8.704 ^石	159.760 ^円	2.000 ^合
2.959	27.502	1.348	9.29	2.738	4.878	45.839	1.784
40	320	1.000	8.00	40	40	280	1.000
375.000 ^貫	33.750	300 ^貫	9	1.450	435.000 ^貫	39.150	300 ^貫
60.000	10.800	400	18	152	45.500	9.120	300
49 ^石	1.102	623 ^合	22.49	84	56 ^石	805	667
15.149 ^石	—	—	—	—	13.678 ^石	—	—
435.000 ^貫	328.179	—	—	8.811	480.600 ^貫	254.954	—

和7年				昭和6年			
收穫高	價額	一反歩 收穫高	單價	作 反	收穫高	價額	一反歩 收穫高
12.500 ^貫	5.000 ^円	500 ^合	40 ^圓	30 ^反	15.000 ^貫	7.500 ^円	500 ^合
16.000	2.400	400	15	43	17.200	2.580	400
28.500	8.550	150	30	310	77.500	19.375	250
40.000	8.000	500	20	80	40.000	8.000	500
200 ^石	4.400	1.000 ^合	22 ^{升當り}	180	180 ^石	4.500	1.000 ^合
175.000 ^貫	43.750	500 ^貫	25	320	160.000 ^貫	40.000	500 ^貫
400.000	32.000	1.000	8	200	200.000	24.000	1.000
6.000	1.200	400	20	20	8.000	2.000	400
112.500	16.875	450	15	280	126.000	25.200	450
120.000	36.000	300	30	400	120.000	48.000	300
325 ^石	5.850	1.300 ^合	18 ^{升當り}	245	319 ^石	5.742	1.300 ^合
—	20.930	—	—	256	—	19.014	—
525 ^石	—	—	—	—	496 ^石	—	—
910.500 ^貫	184.955	—	—	2.364	763.700 ^貫	305.911	—

(6) 果 實

種 別	昭 和 8 年				樹 數
	樹 數	收 穫 高	價 額	單 價	
梅	502	61	976	1.600	490
桃	1.210	2.200	836	38	1.280
ビ	607	1.665	583	35	608
イ	370	65.185	264.000	4.05	180
ミ	38.554	192.575	48.144	25	38.445
ナ	6.780	44.070	9.695	22	6.750
計	47.653	240.510	324.234	-	47.573

(7) 茶 業

年 次	茶 畑 反 別	茶 業 戸 數	數 量	價 額
昭和8年	1.342	67	64.072	85.466
昭和7年	1.342	67	68.690	79.462
昭和6年	1.342	67	66.913	73.107

(8) 蠶 絲 (其1)

年 次	桑 畑			養 蠶 (春夏秋)				
	本反別	見 積 反 別	計	飼 育 戸 數	掃 立 量	收 滿 高	價 額	上 滿 1 貫 匁 平 均 價 格
昭和8年	23	28	51	10	405	293	1.633	5.57
昭和7年	23	28	51	11	451	324	860	2.65
昭和6年	30	37	67	15	545	378	881	2.33

蠶 絲 (其2)

年 次	數 量			眞 綿		
	製造戸數	生 糸 量	屑 物 量	製造戸數	産 額	價 額
昭和8年	-	-	-	1	16	368
昭和7年	-	-	-	1	20	440
昭和6年	1	1.250	350	1	20	420

和 7 年			昭 和 6 年			
收 穫 高	價 額	單 價	樹 數	收 穫 高	價 額	單 價
52	936	18.00	490	74	1.036	14.00
2.112	845	40	1.280	2.640	1.056	40
1.456	510	35	600	1.820	657	35
75.000	270.000	3.60	174	84.819	188.262	1.55
192.225	38.445	20	37.845	227.070	36.331	16
43.875	8.775	20	6.200	48.000	7.200	15
52	-	-	46.415	316.349	184.522	-
239.698	319.511	-	174	74	-	-
75.000	-	-	46.415	316.349	184.522	-

3 畜 産 業

(1) 概 説

昭和8年における畜産額は約18萬6千圓で當市全生産額の0.6%であつて殆ど論ずるに足らないのであるが、然し畜産額は次第に増加する傾向を呈してゐる、飼育戸数はそれ程増加しなくとも、飼育(羽頭)数は漸増しつつあり、産額も毎年増加を見てゐる、今後將來ありと思はれるのは養鶏であり、牛乳、養豚も夫々盛んになりつつある

詳細の統計は次表を参照されたい

(2) 畜産類總額

年 次	家 畜		家 禽		産 卵		牛 乳		價 額 合 計
	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額	
昭和8年	571	2.981	52.004	57.499	4.558.913	91.191	668	33.800	185.571
昭和7年	417	2.313	58.640	53.431	4.986.930	99.751	611	30.550	186.045
昭和6年	516	2.044	57.970	59.058	4.220.295	97.073	679	40.740	199.515

(3) 家畜

年次	名稱	飼養戸數	成畜			子畜			年内出產		
			牝	牡	計	牝	牡	計	牝	牡	計
昭和8年	牛	232	79	232	311	9	5	14	9	5	14
	馬	84	14	80	94	—	—	—	—	—	—
	豚	553	372	55	427	390	82	472	231	340	571
	兎	21	85	122	207	145	167	312	145	167	312
昭和7年	牛	229	82	232	314	15	2	17	15	2	17
	馬	86	15	81	96	—	—	—	—	—	—
	豚	387	383	52	435	258	42	300	181	278	459
	兎	11	38	62	100	85	93	178	85	93	178
昭和6年	牛	206	102	186	388	5	3	8	8	3	11
	馬	55	16	56	72	—	—	—	—	—	—
	豚	483	639	145	784	228	34	262	203	152	255
	兎	11	—	—	—	—	—	—	70	80	150

(4) 家禽

年次	飼養戸數	名稱	羽數	價額	産卵價額	價額合計
昭和8年	880	鶏	51,843	57,377	91,152	148,529
	5	アヒル	162	122	39	161
昭和7年	902	鶏	58,631	53,418	99,712	153,130
	2	アヒル	9	13	39	52
昭和6年	953	鶏	57,965	59,650	97,050	156,700
	1	アヒル	5	8	23	31

(5) 牛乳

年次	搾乳戸數	頭數	搾乳高	價額
昭和8年	6	56	668	33,800
昭和7年	6	49	611	30,550
昭和6年	6	59	679	40,740

4 林産業

(1) 概説

昭和8年に於ける林産は2,950圓で、當市生産物總額2千9百萬圓に對しては比較にならぬ數字である、然も林産は年々減少してゆくが、これは都市の性質上當然のことである、本市は三保、不二見方面に約190萬坪の林野があるが、前者は大部分名勝保存の爲めの保安林で林産物は殆んどなく、後者は無立木地過半を占めてゐる、用材は米材、沿海州材及北洋材等を主に使用し薪材の如きも製材工場の屑を殆ど只に等しき價額を以て買入ることが出来るので伐採する者はない、人口増加に伴ひ自然、耕地は宅地其他に潰廢せられ開墾して茶及柑橘畑等に變換せらるるので、恐らく將來に於ては本市に植林事業の起ることは想像されない

(2) 山林及林野産物

年次	用材		薪材		竹材		林野産物	價額合計
	伐採面積	數量 價額	伐採面積	數量 價額	伐採面積	數量 價額		
昭和8年	反	石 円	反	タナ 円	反	タナ 円	円	円
	—	—	45	450 360	1	50 67	2,478	2,905
昭和7年	—	—	78	775 620	5	195 263	2,575	3,458
昭和6年	—	—	7	152 124	5	208 270	2,571	2,965

5 水産業

(1) 概説

昭和8年に於ける水産物總額は約132萬圓余であつて當市生産物の約5%に當つてゐる、その内産額の多いものはイワシ、鯉節、牡蠣、海苔である、次表に見へる如く水産漁獲物は31萬圓に過ぎないが伊豆、遠州、御前崎方面及三重、和歌山其他の遠洋漁船によつて當市々場に集められるものは相當多く其の額2百萬圓に登つてゐる

尙近年維詰業の進展に伴ひ鮪の輸移入高は益々増加を見つゝある
次に注目すべきは牡蠣及海苔の養殖事業の將來である、本來なれば貿易港内の

漁業は禁止されてゐるのだが、當市は古くより、清水港内即ち清水、不二見、駒越、折戸、三保本村等の沿岸に於て漁業特に前記養殖業が行はれてゐるのだが近來港内修築事業の進行につれて當業者の免許が取消されるに至つた、依て牡蠣及海苔の養殖場数は半減乃至3分の1に減じ従て價額も又減ぜざるを得ない、然し何れにしても港の完成と共に於ける養殖場が自然消滅するのは當然である、目下は折戸灣の一部と三保海岸の一部に海苔及牡蠣が養殖せられてゐるに過ぎない

(2) 水産漁獲物

年次	カツヲ		イワシ		サバ		マグロ		タビ		
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	
昭和8年	—	—	1,170	500	93,640	34,220	25,323	2,000	2,000	4,383	11,724
昭和7年	—	—	79,300	47,580	25,000	20,000	18,000	14,400	6,050	15,965	
昭和6年	—	—	66,101	39,661	42,000	31,500	8,200	8,200	4,117	10,560	

年次	其他魚類		貝類		エビ		其他水産動物		合計	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和8年	132,920	132,037	15,666	4,700	80,670	38,302	1,850	3,500	147,209	311,226
昭和7年	114,555	117,429	16,100	4,508	23,600	20,296	2,250	4,350	284,855	244,528
昭和6年	71,820	63,685	9,300	2,325	427	982	1,510	2,868	203,475	159,781

(3) 水産製造物

年次	經節		其他節類		資干イワシ	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和8年	20,000	146,000	7,500	36,800	25,000	13,250
昭和7年	20,000	140,000	10,500	43,125	20,300	10,150
昭和6年	38,400	338,688	29,800	169,040	20,300	18,270

其他食料品		其他水産製造物		計	
数量	價額	数量	價額	数量	價額
260,750	569,145	113,000	27,660	426,250	792,855
237,100	491,300	31,000	6,820	318,900	691,395
225,768	689,207	30,960	12,384	345,228	1,227,589

(4) 水産養殖物

年次	カ		キ		海		苔		計	
	場数	面積	場数	面積	場数	面積	場数	面積	場数	面積
昭和8年	4	36,240	82,280	2	5,239	117,720	6	41,479	200,000	
昭和7年	4	36,211	76,695	4	19,560	48,875	8	56,071	125,570	
昭和6年	4	36,211	81,000	4	19,860	161,490	8	56,071	242,490	

6 工 業

概 説

當市には元工業として見るべきものなかりしが、明治27年現在の株式会社巴川製紙所の前身太田製紙所が設立され始めて機械工場の出現を見たのである、同工場は鳥の子紙を製造し主に支那に輸出して當市工業の先驅をなしてゐる、其後同工場は幾多の波瀾を経て東京井上源之丞の手に移り、大正6年組織を株式会社に改め主として電信機用紙、電氣絶縁紙等を抄造し電信機用紙は逓信省に、絶縁紙は住友、古河、藤倉、日本電線等の4大電線会社に納入し完全に輸入を防遏しつつあり、其他煙草吸口用紙、プレスボード、プレスパン、包装用紙、ファイバーパーティメントペーパー、原紙及印書紙用原紙、壁紙、切符用紙等の特種用紙を抄造して居る。

丁度其年(大正6年)豊年製油株式会社清水工場が設立され、同工場の大豆油は同社鳴尾工場の生産を合せ我國に於ける全産額の8割以上を占め、其の用途は内地に於ては食料工業用とし、又外國に於ては人造バタ、石鹼の原料として用ひらる。

又同社の大豆粕は最も進歩せる撒粕とし滿洲に於ける従來の壓搾法に依る板粕の改良せられたるもので品質は優良である。

日本に於ける北洋材五大市場の一に居る我が清水港、中部日本に於ける製材製函業の中心地たるべき将来を有する我が清水市の木材工業が當市工業界重要な位置に在ることは論を俟たざる所である。

今其の概況を述ぶるに、震災前21工場に過ぎざりしものが震災復興計畫の樹立と共に其の材料の需用は製材工場の簇出を促し、且清水港修築工事の完成と共に各地の營業者は早くから經營上清水港に轉するの有利なるに着眼し、製材工場の如き相踵いで建設されるに至りたるものにして關東復興事業の完成と共に建築材の如きは其の需用を減殺されたとは云へ新なる販路の擴張もあり、昭和8年末現在に於て工場總數(5名以上使用のもの)33に達し其以下の工場の生産額を合すれば500萬圓に及び當市工業界に重きを爲して居る。

清水港の重要輸出品の一つに對米輸出水産物の花形と誦はれるものに鮪油漬罐詰がある、顧みるに本邦に於ける鮪油漬罐詰業は從來幾多の難局に遭遇して久しく中絶してゐたが對米原料關係の好條件を發見するに及んで再び業界の注意を喚起するに至つた、當時は財界の不況、過去の經歷等が本企業に災して容易に具体化するに到らなかつたのである、然るに偶々豫而研究中の静岡縣水産試験場に於ける昭和3年輸出試験の結果は北米紐育市場に好評を博し爾來農林省並に本縣水産試験場の指導に依つて企業化し先づ昭和4年12月清水食品株式會社が創業し、次で昭和6年後藤罐詰所、昭和7年清水水産株式會社、昭和8年には櫻田、柴田、杉山罐詰所等頻々と開業し、一意産業開發を念とし盛に歐米に輸出し名聲を博して居る、昭和6年輸出額は約30萬圓であつたが昭和7年には200萬圓に上り、昭和8年末には45萬箱500萬圓を突破し新興事業として登場以來茲に3、4ヶ年恰も夢の如き急テンポの發達を爲し來つたのである。

以上の外主要生産物は再製鹽31萬圓、各種機械類の40萬圓、船舶の40萬圓、塗料の30萬圓、木製品の27萬圓、製氷の15萬圓、清酒の15萬圓、醤油の10萬圓、綿織物、燻寸の9萬圓等がある。

(2) 工場總覽 (常時職工5人以上使用スルモノ)

工場種別	工場數	生産額	昭和8年末現在		
			職男	職女	計
紡織工業	4	68,671	6	32	38
金屬工業	3	57,593	50	12	62
機械器具工業	13	519,770	294	9	303
化學工業	5	13,507,190	285	53	338
製材及木製品工業	39	4,322,809	1,130	100	1,230
印刷製本業	4	41,226	20	0	20
食料品工業	12	6,158,851	219	695	914
其ノ他ノ工業	13	419,643	119	134	253
計	93	25,095,753	2,123	1,035	3,158

工場種別	工場數	生産額	昭和7年末現在		
			職男	職女	計
紡織工業	4	130,928	7	39	46
金屬工業	4	54,003	28	4	32
機械器具工業	14	346,493	184	12	196
化學工業	7	11,702,036	266	40	306
製材及木製品工業	43	3,191,044	1,147	67	1,214
印刷製本業	5	40,328	25	0	25
食料品工業	10	3,002,329	159	480	639
其ノ他ノ工業	14	453,075	128	121	249
計	101	18,920,236	1,944	763	2,707

工場種別	工場數	生産額	昭和6年末現在		
			職男	職女	計
紡織工業	6	188,944	18	76	94
金屬工業	4	52,363	43	16	59
機械器具工業	12	269,297	208	0	208
化學工業	6	10,866,256	286	40	326
製材及木製品工業	34	2,758,806	899	55	954
印刷製本業	3	17,300	16	0	16
食料品工業	6	810,337	83	92	175
其ノ他ノ工業	5	290,835	46	69	115
計	76	15,164,138	1,599	348	1,947

工場

工場名	所在地
岩崎紙布工場	辻 447
劍持醬油醸造場	全 623
鈴木洋服店	全 789
伊豆川酒造場	全 805
大塚製材所	全 930
龍東材木株式會社	全 946
高原印刷所	全 1,029
清水日々新聞社	全 1,073
秋山洋服店	全 1,205
橋本工場	全 1,092
池上鐵工所	江尻 161
内山洋服店	全 378
大畑箆筒店	全 403
大瀧製材所	全 405/1
三和製材合資會社	全 431
ヶイキヤ印刷所	全 543
川口洋服店	全 689/1
西田製函所	全 692
栗田織布工場	全 956
三田織布工場	全 1,354
小長井建具店	入江 24
岡田酒造場	全 61
小長井箆筒店	全 74
株式會社巴川製紙所	全 364
合資會社寺尾兄弟製函所	全 465
ヤマト興業株式會社清水工場	全 630
合資會社鈴與自動車工場	全 1,402
太田商會	全 2,789
長島化學製品所	全 2,793
望月ベニア工場	全 2,799

總覽 (昭和8年末現在)

事業開始年月	主要事業	工場主
昭和 5. 5.	紙布製造業	岩崎菊次郎
安政年間	醬油醸造業	劍持幸司
昭和元. 8.	洋服裁縫業	鈴木長太郎
明治 38. 12.	和酒醸造業	伊豆川常造
昭和 8. 7.	製材業	大塚長平
明治 31. 6.	全	龍東材木株式會社
昭和元.	印刷業	高原利市
全 3. 8.	新聞印刷業	若林今朝一
大正 10. 2.	洋服裁縫業	秋山爲吉
明治 39. 4.	製茶機械製作業	橋本順作
寛政 6. 5.	製材機械其他製作業	池上彌治郎
大正 15. 9.	洋服裁縫業	内山太一
全 12. 4.	家具製造業	大畑英一
全 13.	製材業	大瀧亮
昭和 6. 1.	全	三和製材合資會社
大正 8. 9.	印刷業	磯田長作
昭和 3. 7.	洋服裁縫業	川口清治
大正 13. 4.	製函業	西田政
全 13. 9.	綿織物業	栗田當三郎
明治 30. 2.	全	三田延太郎
大正 3.	家具製造業	小長井鐵造
慶應 3.	和酒醸造業	岡田大三
明治 18.	箆筒製造業	小長井儀平
大正 6. 8.	製紙業	株式會社巴川製紙所
昭和 6. 5.	製函業	合資會社寺尾兄弟製函所
全 2. 6.	人造毛皮製造業	ヤマト興業株式會社
全 8. 6.	自動車修繕及機械製作業	合資會社鈴與自動車工場
大正 14. 11.	パナマ帽子原料製造業	太田循
全 5. 1.	塗料製造業	長島銀藏
昭和 5. 7.	ベニア板製造業	望月政吉

清水燐寸合資會社	入江 2,913/1
天龍製材株式會社清水支店	上清水 117
牧田製材所	全 123
長澤金網工場	全 168
岸山洋服店	全 350
渡邊製材所	萬世町一丁目 50
杉山家具店	全 二丁目 12
田中洋服店	全 二丁目 13
村上釣針製造所	松原町一丁目 7
中村織布工場	全 二丁目 11
北川製材所	全 三丁目 11
小中共同鐵工所	入船町二丁目 27
日本食料工業株式會社清水第一工場	全 三丁目 8
仲井製材所	富士見町一丁目 14
川口製材所	全 二丁目 1
清水水産株式會社	全 二丁目 {10, 13}
新清堂本店	港町一丁目 23
後藤鐵工所	全 一丁目 57
望月洋服店	全 二丁目 82
中大村鑄物工場	全 三丁目 43
鈴與再製鐵工場	全 三丁目 {71, 72}
坂本製材工場	全 四丁目 5
角井鐵工場	築地町一丁目 57
合資會社菊菱工業所	全 二丁目 26
清水食品株式會社	全 二丁目 34
清水鑄造所	全 二丁目 47
森田造船所	全 二丁目 57
大橋家具店	全 三丁目 63
西貝印刷所	清水 357
海老岡筆筒店	全 385
杉山罐詰工場	全 502
安本材木店清水工場	全 752
	清開 26

昭和 6. 2.	燐寸製造業	清水燐寸合資會社
大正 12. 4.	製材業	天龍製材株式會社
全 11. 9.	全	牧田新
明治 6. 3.	金網製造業	長澤重兵衛
大正 13.	洋服裁縫業	岸山重郎
全 8. 8.	製材業	渡邊道太郎
全 12. 7.	家具製造業	杉山梅吉
全 13. 3.	洋服裁縫業	田中藤作
明治 34. 3.	釣針製造業	村上貞治
全 10.	魚網製造業	中村清治
大正 12. 11.	製材業	北川祝太郎
全 8. 11.	內燃機關製造業	中野專太郎
全 8. 6.	製氷業	日本食料工業株式會社
全 13. 5.	製材業	仲井政藏
昭和 5. 4.	全	川口喜久司
全 7. 5.	罐詰業	清水水産株式會社
明治 10.	菓子製造業	瀧靜夫
昭和 7. 5.	罐詰業	後藤磯吉
大正 9. 10.	內燃機關修理業	望月辰藏
全 10. 4.	洋服裁縫業	中田源太郎
昭和 5. 11.	鑄物業	大村國正
大正 7. 7.	再製鐵業	鈴木與平
昭和 7. 10.	製材業	坂本直樹
大正 12. 9.	內燃機關修理業	角井仲藏
全 15. 1.	人造毛皮製造業	合資會社菊菱工業所
昭和 5. 3.	罐詰業	清水食品株式會社
大正 9. 1.	鑄物業	遠藤市太郎
全 14.	造船業	森田森作
全 12. 9.	家具製造業	大橋金治
明治 43. 3.	印刷業	西貝眞吉
大正 13. 6.	家具製造業	海老岡まき
昭和 8. 5.	罐詰業	杉山留吉
大正 13. 8.	製材業	安本源吉

不	二	見	屋	製	材	所	清	開	27
伊	藤	鐵	工	所			全		130
豐	年	製	油	株	式	會	新	港	3
鈴	與	煉	炭	工	場		全		7/1
深	江	工	業	所			村	松	1089
駿	陽	織	物	合	資	會	北	矢	部 76
渡	邊	製	瓦	工	場		全		289
渡	邊	材	木	店			駒	越	253
大	力	製	材	株	式	會	全		259
兒	玉	製	材	株	式	會	全		260
福	島	製	材	合	資	會	全		343
齋	藤	製	材	所			全		345
港	南	製	材	合	資	會	全		355
山	一	鈴	木	製	材	所	全		459
酒	井	製	材	所			全		505
三	吉	製	材	所			折	戸	6
折	戸	製	材	所			全		78/1
增	田	製	材	所			全		237
西	谷	製	材	所			全		248/2
川	口	製	材	所			全		263
福	島	製	材	合	資	會	全		379
塚	間	造	船	所			三	保	496
小	柳	造	船	所			全		500
宮	城	島	酒	造	場		全		1026
株	式	會	社	三	保	造	全		2894
樓	田	織	詰	所			全		2942/2/2/1
三	保	製	函	所			全		3581/1
山	本	製	函	工	場		全		3600
滿	留	賀	製	材	所		全		3601
合	資	會	社	金	指	造	全		4010/19

大	正	12.	9.	製	材	業	櫻	井	淺	治	郎				
明	治	36.	6.	ダイゼ	ル機	關	伊	藤	德	太	郎				
大	正	6.	1.	内	燃	機	豐	年	製	油	株	式	會	社	
昭	和	7.	8.	大豆	油	撒	鈴	木	與	平					
全		2.	2.	大豆	粕	製	深	江	幸	太	郎				
明	治	33.	10.	煉	炭	製	駿	陽	織	物	合	資	會	社	
大	正	7.	11.	ゴ	ム	製	渡	邊	邊	幸					
全		13.	4.	綿	織	物	渡	邊	銀	作					
全		15.	7.	製	瓦	業	大	力	製	材	株	式	會	社	
昭	和	2.	4.	製	材	業	兒	玉	製	材	株	式	會	社	
大	正	13.	5.	全			福	島	製	材	合	資	會	社	
昭	和	3.	7.	全			齋	藤	義	平					
全		6.	6.	製	材	製	港	南	製	材	合	資	會	社	
大	正	13.	9.	製	材	製	鈴	木	伊	次	郎				
全		15.	1.	製	材	製	酒	井	榮	一					
昭	和	4.	4.	製	材	製	小	花	二	郎					
全		3.	6.	全			佐	々	木	又	次				
大	正	13.	11.	全			增	田	麟	三					
昭	和	3.	2.	全			西	谷	保	之	助				
全		4.	1.	全			川	口	勝	三	郎				
全		3.	1.	全			福	島	製	材	合	資	會	社	
大	正	10.	10.	造	船	業	櫻	田	榮	作					
全		15.	4.	全			小	柳	直	吉					
明	治	32.	10.	和	酒	釀	宮	城	島	晴	男				
大	正	8.	6.	造	船	業	株	式	會	社	三	保	造	船	所
昭	和	8.	1.	造	船	業	櫻	田	虎	藏					
全		2.	8.	製	函	業	遠	藤	作	吉					
大	正	13.	4.	全			山	本	嘉	之					
昭	和	8.	1.	製	材	業	塚	本	仙	太	郎				
大	正	8.	7.	造	船	業	合	資	會	社	金	指	造	船	所

(3) 工業製品 (其1)

年次	大豆油		製氷		再製糖	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和8年	28,781,000 ^斤	4,669,820 ^円	3,875,930 ^貫	155,037 ^円	7,446,680 ^斤	315,650 ^円
昭和7年	31,966,072	5,434,232	4,805,000	192,220	7,782,260	313,780
昭和6年	40,622,400	4,352,400	3,994,150	158,966	7,522,350	315,939

工業製品 (其2)

年次	撒大豆粕		肥料		清涼飲料水	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和8年	152,370,000 ^斤	6,284,250 ^円	—	—	—	49,735 ^円
昭和7年	165,139,962	6,953,263	—	—	—	40,525
昭和6年	296,976,000	5,295,100	15,000	45,000	—	41,250

工業製品 (其3)

年次	清酒		麵類		味噌	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和8年	2,134 ^石	145,112 ^円	49,500 ^貫	24,250 ^円	21,120 ^貫	8,448 ^円
昭和7年	1,903	152,240	50,530	23,749	22,450	8,531
昭和6年	2,080	166,422	51,350	23,621	22,900	8,015

工業製品 (其4)

年次	菓子		西洋紙		縮織物	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和8年	—	130,582 ^円	10,402,000 ^{ボンド}	1,140,448 ^円	69,001 ^反	94,914 ^円
昭和7年	—	113,550	7,364,283	1,003,420	225,796	126,299
昭和6年	—	97,950	5,837,616	884,717	186,498	111,419

工業製品 (其5)

年次	皮革製品		染物		生糸	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和8年	—	38,485 ^円	—	12,135 ^円	—	—
昭和7年	—	36,137	—	11,511	—	—
昭和6年	—	35,485	—	16,926	1,600	44,600

工業製品 (其6)

年次	竹製品		機寸		木製品	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和8年	—	15,123 ^円	2,954,400 ^{ダース}	91,783 ^円	—	271,718 ^円
昭和7年	—	18,226	3,160,933	94,828	—	316,221
昭和6年	—	12,938	490,800	14,727	—	371,965

工業製品 (其7)

年次	製材品		鮪油漬罐詰		鮪味付罐詰	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和8年	—	5,256,905	323,260	4,397,667	33,402	156,331
昭和7年	—	3,191,044	194,965	2,311,166	5,978	26,230
昭和6年	—	3,923,292	30,000	300,000	5,000	25,000

工業製品 (其8)

年次	密柑罐詰		鮪水煮罐詰		鯨油漬罐詰	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和8年	24,901	176,133	493	7,913	75,231	739,825
昭和7年	7,944	53,793	3,164	85,541	231	2,815
昭和6年	3,000	21,000	—	—	—	—

工業製品 (其9)

年次	各種機械類		瓦		船	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額
昭和8年	—	402,760	—	29,085	—	400,000
昭和7年	—	327,550	—	28,118	—	110,000
昭和6年	—	310,000	—	28,393	—	180,982

工業製品 (其10)

年次	其他		價額合計
	数量	價額	
昭和8年	—	1,760,960	26,774,868
昭和7年	—	691,429	21,736,413
昭和6年	—	855,554	18,136,958

7 商 業

(1) 概 説

清水市交易の沿革

當市は天然の良港たる關係上、古くより物資の交易は殷盛であつて、古きを尋ねれば遠く安閑天皇の御代に遡るべく、之を近世日本産業の搖籃時代に求むるならば徳川初期に見ることが出来る

即ち徳川初期に於ては當港に船手をおき、船藏を建て幕府の水軍の根據地となし、又42軒の諸問屋を特許し湊方(海事事務)を設けて大に海陸の交易を奨励した、かくて駿河甲州の貨物は皆清水に集散されたのであつた

越へて明治時代に入り、漸く國際の關係は密接を加へ政府も又海外貿易の振興を奨励するやうになつたので、當地人民は明治23年帝國議會開設以來舉つて當港が貿易港とならんことを求めたのである、當時、甲信二國の貨物は天龍川を下り愛知、岐阜、三重の諸國のそれは陸路をとり、夫々清水港に集められ、更に外國に出されたるものは當港より横濱に回送されてゐた、即ち中繼貿易港であつてその煩雜並に無駄な運賃は相當の額に上つたのである、これを明治27年の茶の輸出額を見た丈けでも400萬圓であつて、これは直接清水より輸出され得ぬ状態であつた

かくて輿論の熱情は政府を動かし明治29年10月勅令を以て開港外貿易港(日本船舶のみによれる外國貿易港)となり、越えて32年8月純然たる貿易港になつたこの時まで我邦に於ける外國貿易港は横濱、神戸、長崎、函館、新潟の5港のみであつて、これより後清水港と共に開港場に指定されたものは28港であつた

清水港内外貿易

清水港は他の多くの開港場の傾向とその軌を一にして、初めて輸出の方が輸入より活潑であつた、これを数量に見る時、明治42年の出入貨物は輸入18,524噸、輸出21,723噸であつたが大正5年は輸出13,893噸、輸入19,430噸であり、豊年製油工場の設立された大正6年は輸出14,927噸、輸入66,671噸、昭和8年になると輸出62,302噸、輸入は241,370噸に激増した、これら數量の著しき差異は輸出は殆ど製茶のみで而も箱の數量を加算してゐないことと、輸入に於ては大豆、飼料及豆粕が主要貨物であつたからで、昭和8年の清水港外國貿易額は輸出16,269,675圓、輸入13,935,667圓である

尙全國に於て當港は第8位の輸出額を有し、第11位の輸入額を持つてゐる(卷

頭第4表第5表参照)これを明治32年約200萬圓の内外貿易額より出發した當港の進歩は實に隔世の感ありと云はねばならぬ

次に内國貿易を見ると、明治32年は移出1,584,819圓、移入180,713圓、合計約287萬圓であつて、明治38年の移出入合計955萬圓を絶頂として漸減の傾向を辿り大正3年のそれは約390萬圓であつた、これは對外貿易に押されて次第に中繼貿易港の面目を改めたことであつたが、更に本市に生産工業が盛んになるや俄然材料の需要は國內貿易も刺戟されて、大正13年には移出は僅か148萬圓余のところ移入は3千萬圓を越えてゐた、昭和8年に於ける移出額は4,231,991圓、移入27,229,750圓、計31,461,741圓で、噸數は移出184,415噸、移入775,817噸である

大正13年、全14年、全15年移出入總額が常に8千萬圓を越えてゐたことは關東大震災のため横濱港及陸路交通の復興せざりしたためで、これは一時の變態現象であつた、本市産業の發展に伴ひ堅實なる發達をとげて内國貿易額3千萬圓を突破するに至つた

次に品種別に内外貿易を觀察するときは輸出の綠茶、輸入の大豆は最も著名で昭和8年に於ける綠茶の輸出額は7,490,685圓で當港輸出總額の46%を占め大豆の輸入額は10,349,973圓でこれは當港輸入總額の74%を占めてゐる

清水港と綠茶輸出とは到底切り離すことの出来ぬ程密接な關係があることは贅言を要せざるものであつて、明治33年に於ては僅か6萬圓の輸出額で未だに横濱神戸より輸出されてゐた、然るに明治39年5月創めて神奈川丸といふ輸出茶直航船の出るに至り一躍166萬圓の輸出額に上つた、爾來漸増の跡を辿り明治42年には1,400萬ポンド價額522萬圓に至り横濱の輸出額を超過すること91萬ポンドとなり名實共に我邦第一の綠茶輸出港となつた、次いで大正6年には遂に1千萬圓を越すこと45萬圓の貿易額に至り、アメリカ合衆國、カナダ、ロシアには強くその存在を印銘せしめたのである

綠茶に次ぐ貿易額は昭和8年に於ては雜詰の7,118,506圓、大豆油324,669圓、密柑300,133圓等である、大豆油については本文工業概説に於ても説明したからその詳述を避けるけれども、上述の如く輸出物中重要な位置を占めてゐる、密柑の輸出も又清水市の特徴であつて、全國に於て密柑を海外に輸出する港は横濱、神戸四日市と當港の四港であるが、清水は全國一で約80%の多額を輸出するのである

昭和8年に於ける輸入の重なるものは大豆の10,349,973圓、豆粕の1,059,699圓、飼料の596,333圓、石炭634,090圓、木材の470,147圓等である、本文「工業概説」に於て詳述せる如く大豆は殆ど全部豊年製油清水工場に入つて大豆油、大豆粕に生産され内外市場に送られるのである

豆粕は肥料として、飼料は縣内及近縣に消費され、木材は主に樺太、沿海州及

びアメリカ合衆國より來り、原木は主に本縣富士製紙工場及び縣内各地へ移出され、製材は關東地方、長野縣及山梨縣等に移送されるのである(本文「工業概説」参照)

尙詳しきは次表に於て見られたい

倉庫回漕

清水港は貨物の集散著しきため、夙に回漕及倉庫業は活潑である、現在法人倉庫業者は鈴與倉庫、清水倉庫の2社であつて、その倉庫建坪數合計6,972坪、昭和8年に於ける入庫高148,529噸、年末殘高8,149噸である

又回漕業者中主なる者は法人個人を合して4店であるがそれに従事する仲仕人足は毎日平均1,500人余あり、多い日は2,000人も働き、1年の延人員を求むれば約34萬人である、この80%は鈴與商店回漕部のものである

會社金融

當市に本店を有する會社は昭和8年末現在で108社あり、之を昭和7年末現在に比較するときは2社の減であるが、大正13年市制施行の年末には僅に53社であつたのに比較すれば約2倍の増加であるのは如何に當市商工業の發達しつつあるかが窺はれる、而して昭和8年末現在の資本金總額は9,081,748圓で最も多いのは株式會社の8,073,000圓、之に次ぐは合資會社の900,758圓、合名會社の107,990圓である

今之を業態別に看るときは最も社數の多いのは商業の60社2,342,848圓で、投下資本額の多いのは工業の36社2,745,900圓あつて之に次ぐものは銀行業の1社2,520,000圓、商業の60社2,342,848圓、運輸業の11社1,473,000圓である

(2) 清水港

年次	區別	穀類	飲食料品	建築材料
昭和8年	移入	3,418,921	6,516,229	8,050,796
	移出	197,277	891,865	1,509,944
	輸入	10,540,701	144,493	470,147
	輸出	6,377	7,702,651	—
	計 移輸入 移輸出	13,959,622 203,654	6,660,722 8,594,516	8,520,943 1,509,944
昭和7年	移入	2,131,111	5,180,397	4,491,761
	移出	43,095	614,247	1,325,638
	輸入	8,954,534	141,048	550,010
	輸出	—	9,554,395	—
	計 移輸入 移輸出	11,085,645 43,095	5,321,445 10,168,642	5,041,771 1,325,638
昭和6年	移入	3,479,871	3,173,642	5,110,327
	移出	36,203	631,775	337,760
	輸入	8,374,933	47,003	439,833
	輸出	—	8,389,841	—
	計 移輸入 移輸出	11,854,804 36,203	3,220,945 9,021,616	5,550,160 337,760

(5) 主要貨物

品名	主ナル國	輸 出		
		昭和8年 價 額	昭和7年 價 額	昭和6年 價 額
緑茶	合衆國 ロカナ	7,490,685	7,830,371	7,768,288
大豆油	オランダ イギリス	324,669	991,131	1,031,987
大豆粕	合衆國 ハソイ	79,450	686,904	63,897
密柑	カナダ 合衆國	300,133	215,573	318,858

内外貿易

燃料品	肥料	其他	計
3,849,134	907,664	4,487,006	27,229,750
852,826	99,695	680,384	4,231,991
751,475	1,059,699	969,152	13,935,667
—	—	8,603,447	16,312,475
4,600,609	1,967,363	5,456,158	41,165,417
852,826	99,695	9,283,831	20,544,466
2,738,731	1,449,833	4,308,088	20,299,927
560,982	77,262	889,786	3,511,010
626,329	957,067	555,029	11,784,017
—	—	2,071,056	11,625,451
3,365,360	2,406,900	4,863,117	32,083,938
560,982	77,262	2,960,842	15,136,461
2,081,519	795,197	2,451,386	17,091,942
575,590	86,964	639,756	2,308,048
679,668	1,337,940	694,072	11,573,449
—	—	1,489,610	9,879,451
2,761,187	2,133,132	3,145,458	28,665,391
575,590	86,964	2,129,366	12,187,499

輸出入状況

品名	主ナル國	輸 入		
		昭和8年 價 額	昭和7年 價 額	昭和6年 價 額
大豆	關東支 滿州支	10,349,973	8,617,874	7,986,914
豆粕	關東支 滿州支	1,059,699	709,526	1,307,735
硫酸肥料	ドイツ イギリス	—	58,463	215,400
穀	中東支 關東支	179,424	234,327	410,602

	合カ	衆ナ	國ダ	円	円	円
織詰				7,187,142	1,885,400	272,404
シイタケ	合	衆	國	11,661	6,559	15,323
醤油	合ハ	衆ソ	國イ	31,448	22,398	10,357
其他				887,247	437,106	398,337
計				16,312,475	11,625,451	9,879,451

(4) 主要貨物

品名	移出		
	昭和8年	昭和7年	昭和6年
製材品	1,137,363	1,226,810	350,775
ミカソ	320,442	492,623	301,368
其他	2,779,186	1,791,577	1,655,905
計	4,236,991	3,511,010	2,308,048

(5) 清水港輪

國別	輸出		
	昭和8年 價額	昭和7年 價額	昭和6年 價額
北米合衆國	12,494,194	6,705,363	5,615,828
ロシア	1,549,720	1,331,684	1,868,217
カナダ	722,648	874,623	892,784
オランダ	7,850	533,286	719,144
關東州	652,273	967,479	354,630

	關佛	東領	印度	州度	円	円	円
石炭					634,090	626,329	566,490
木材	合	衆	國		470,147	650,010	439,833
小豆	關滿	東	州支		178,211	182,849	137,226
其他					1,064,123	804,639	519,249
計					13,935,667	11,784,017	11,573,449

移出入状況

品名	移入		
	昭和8年	昭和7年	昭和6年
木材	8,050,796	4,491,761	5,110,327
石炭	2,429,614	2,394,490	1,954,072
米	2,764,688	1,524,942	2,791,095
食鹽	1,071,872	738,288	656,910
鮮魚	2,072,770	2,160,038	1,962,980
セメント	888,810	1,144,532	687,456
其他	8,951,200	7,845,870	3,929,102
計	27,229,750	20,299,921	17,091,942

出入國別表

國別	輸入		
	昭和8年 價額	昭和7年 價額	昭和6年 價額
滿洲國	12,051,976	6,142,038	
關東州	763,716	4,507,545	6,181,819
中華民國	184,004	132,941	4,450,557
ドイツ	—	58,463	185,979
北米合衆國	327,059	236,595	263,378
カナダ	28,237	28,577	27,580

イギリス	388,885	465,010	338,443
ハワイ	72,006	59,772	63,848
ドイッ	—	—	360
其他	424,899	688,234	26,197
計	16,312,475	11,625,451	6,879,451

(6) 銀

年次	店籍地別	店数
昭和8年	當所本支店	2
	他所支店	8
	計	10
昭和7年	當所本支店	3
	他所支店	8
	計	11
昭和6年	當所本支店	5
	他所支店	8
	計	13

銀

年次	銀行別	預	
		本年中預り高	本年中支拂高
昭和8年	當所本支店	24,739,519	24,030,462
	他所支店	74,450,891	73,481,083
	計	99,190,410	97,511,545
昭和7年	當所本支店	33,420,400	22,178,385
	他所支店	61,417,674	60,887,766
	計	84,838,074	83,066,151
昭和6年	當所本支店	21,469,911	22,551,690
	他所支店	70,918,192	69,774,654
	計	92,388,163	90,326,344

ソビエツトロシア	344,751	395,378	281,553
イギリス	—	—	29,421
佛領印度	58,919	61,952	34,800
其他	177,005	220,528	188,362
計	13,935,667	11,784,017	11,573,449

行 (1)

資本金	拂込高	準備金
2,520,000	1,633,500	293,100
2,520,000	1,633,500	293,100
2,520,000	1,633,500	275,100
2,520,000	1,633,500	275,100
2,770,000	1,833,500	375,800
2,770,000	1,833,500	375,800

行 (2)

金	貸付		金
	年未残高	本年中貸付高	
7,613,697	7,264,580	7,818,060	8,432,225
10,007,217	31,508,129	31,336,939	6,532,806
17,620,914	38,772,709	39,154,999	14,965,031
6,551,268	10,307,250	8,749,702	8,414,360
9,845,535	37,962,252	27,042,790	6,138,654
19,403,804	38,269,502	35,782,492	14,553,014
6,044,520	7,496,332	7,721,286	6,866,461
12,412,270	30,160,631	28,188,506	8,983,615
18,456,790	37,656,963	35,909,792	15,850,076

(7) 貯

年次	銀行貯金				
	預り高	拂戻高	年末現在		
			人員	金額	1人平均額
昭和8年	566,349 ^円	442,400 ^円	6,656 ^人	421,206 ^円	64 ^円
昭和7年	259,769	213,893	3,982	271,860	69
昭和6年	409,108	308,777	4,806	508,519	106

(8) 質屋

年次	店数	年内	
		受戻金額	流質金額
昭和8年	16	72,788 ^円	7,524 ^円
昭和7年	15	51,648	9,939
昭和6年	16	62,906	12,250

(9) 産業

年次	組合数	組合員数	出資額	拂込出資額	諸積立金
昭和8年	5	1,932 ^人	177,480 ^円	145,236 ^円	7,776 ^円
昭和7年	5	1,918	180,170	146,204	10,903
昭和6年	5	1,960	187,590	142,305	6,808

(10) 手形

年次	組合行数	枚数
昭和8年	11	33,750
昭和7年	12	20,542
昭和6年	13	36,640

金

郵便貯金				
預入		拂戻		
口数	金額	新規預入人員	口数	金額
153,639	1,458,108 ^円	6,465	39,594	1,533,529 ^円
120,808	2,406,974	9,162	35,490	1,930,743
96,195	1,211,359	4,389	24,108	799,912

貸金

年末	
口数	金額
37,398	78,052 ^円
34,608	77,707
30,126	77,087

組合

借入金	貸付金		貯金		販賣高	購買高
	総額	1組合員當り	総額	1組合員當り		
185,902 ^円	542,882 ^円	281 ^円	441,575 ^円	229 ^円	135,290 ^円	59,273 ^円
199,314	587,711	306	461,129	240	119,225	104,725
100,843	725,556	370	538,692	275	81,125	49,472

交換所

交換高	交換残高
11,717,482 ^円	4,190,472 ^円
9,404,382	3,430,752
11,047,685	3,844,154

(11) 會 社

種 別	昭 和 8 年			昭 和	
	社 數	公 稱 資 本 金	拂 込 資 本 金	社 數	公 稱 資 本 金
水産業	—	—	—	—	—
工 業	36	2,745,900	2,158,400	39	2,604,733
商 業	60	2,343,848	1,556,598	60	2,315,550
銀行業	1	2,520,000	1,633,500	1	2,520,000
運輸業	11	1,473,000	1,368,000	10	1,434,000
計	108	9,081,748	6,716,498	110	8,874,283

會 社

年 次	種 別	社 數
昭 和 8 年	株 式	28
	合 資	71
	合 名	9
	計	108
昭 和 7 年	株 式	31
	合 資	70
	合 名	9
	計	110
昭 和 6 年	株 式	32
	合 資	73
	合 名	10
	計	115

總 覽 (其1)

7 年		昭 和 6 年			
拂込資本金	積立金	社 數	公稱資本金	拂込資本金	積立金
—	—	1	300,000	300,000	—
1,529,500	112,669	38	2,503,300	1,577,000	97,230
1,013,750	120,539	64	2,162,800	761,250	114,593
1,633,500	275,100	2	2,770,000	1,833,550	377,300
1,295,000	39,750	10	1,494,000	1,555,000	34,250
5,471,750	548,058	115	9,230,100	5,826,750	623,379

總 覽 (其2)

公 稱 資 本 金	拂 込 資 本 金	積 立 金
8,073,000	5,707,750	619,459
900,758	900,758	34,199
107,990	107,990	—
9,081,748	6,716,498	653,658
7,992,000	5,471,750	514,072
782,283	—	—
100,000	—	33,986
8,874,283	5,471,750	548,058
8,369,500	5,826,750	591,388
784,600	—	31,991
76,000	—	—
9,230,100	5,826,750	623,379

會 社

商 號 又 八 名 稱	所 在 地	主 要 業 務
株 式 會 社 駿 州 銀 行	辻 202	銀 行 業
龍 東 材 木 株 式 會 社	全 946	製 材 業
清 水 港 土 地 株 式 會 社	全 1,227	土 木 請 負 業
清 水 瓦 斯 株 式 會 社	全 1,253	瓦 斯 事 業
駿 遠 鹽 業 株 式 會 社	江 尻 405	鹽 元 賣 捌 業
株 式 會 社 巴 川 製 紙 所	入 江 364	製 紙 業
清 水 木 材 株 式 會 社	新 港 5/1	木 材 販 賣 業
清 水 運 送 株 式 會 社	全	運 輸 取 扱 業
株 式 會 社 清 水 木 材 倉 庫	入 船 町 三 丁 目 13	倉 庫 業
清 水 水 產 株 式 會 社	富 士 見 町 二 丁 目 10 13	罐 詰 業
駿 遠 商 事 株 式 會 社	港 町 三 丁 目 22	船 具 販 賣 業
株 式 會 社 天 野 回 漕 店	全 三 丁 目 63	運 輸 取 扱 業
清 水 食 品 株 式 會 社	築 地 町 二 丁 目 47	罐 詰 業
旭 商 船 商 事 株 式 會 社	港 町 四 丁 目 10	運 輸 取 扱 業
清 水 倉 庫 株 式 會 社	日 之 出 町 一 丁 目 2	倉 庫 業
青 木 運 送 株 式 會 社	港 町 四 丁 目 10	運 輸 取 扱 業
株 式 會 社 清 水 魚 市 場	全	魚 市 場 業
株 式 會 社 宮 城 島 酒 店	萬 世 町 一 丁 目 54	酒 類 販 賣 業
東 海 商 船 株 式 會 社	全 二 丁 目 15	運 輸 取 扱 業
清 江 木 材 株 式 會 社	入 船 町 三 丁 目 2	木 材 販 賣 業
山 明 商 事 株 式 會 社	新 港 町 5/4	石 炭 販 賣 業
駒 越 製 材 株 式 會 社	松 原 町 三 丁 目 23	土 地 建 物 貨 貸 業
鈴 與 倉 庫 株 式 會 社	入 船 町 三 丁 目 12	倉 庫 業
富 士 水 產 株 式 會 社	清 水 268	罐 詰 業
清 水 醬 油 株 式 會 社	村 松 1,061	醬 油 販 賣 業
兒 玉 製 材 株 式 會 社	駒 越 260	製 材 業
株 式 會 社 不 二 見 實 行 社	全 1,019	金 融 業
株 式 會 社 三 保 造 船 所	三 保 2,894/8	造 船 業
合 資 會 社 青 木 材 木 店	辻 142	製 材 業
合 資 會 社 石 月 商 店	全 167	製 茶 業

總 覽 (共3) (昭和8年末現在)

設 立 年 月	公 稱 資 本 金	代 表 者
昭 和 3. 7.	2,520,000	青 柳 市 太 郎
明 治 31. 5.	65,000	小 池 文 次 郎
昭 和 4. 1.	200,000	佐 野 容 造 利
全 4. 10.	500,000	本 多 長 利
大 正 14. 6.	150,000	鈴 木 與 平 治
全 6. 8.	1,500,000	井 上 光 龜 一
全 13. 3.	55,000	高 塚 木 與 平 七
昭 和 2. 3.	1,000,000	鈴 木 野 榮 唯 昌
大 正 15. 5.	300,000	鈴 芝 青 平
昭 和 7. 3.	75,000	芝 野 島 岡 木
大 正 9. 3.	50,000	青 平 岡 木
全 12. 5.	50,000	昭 和 4. 12.
昭 和 4. 12.	100,000	大 正 8. 5.
大 正 8. 5.	200,000	明 治 29. 1.
明 治 29. 1.	100,000	大 正 3. 3.
大 正 3. 3.	100,000	昭 和 6. 9.
昭 和 6. 9.	300,000	大 正 13. 8.
大 正 13. 8.	300,000	昭 和 2. 6.
昭 和 2. 6.	50,000	全 6. 9.
全 6. 9.	100,000	全 3. 4.
全 3. 4.	60,000	全 2. 8.
全 2. 8.	75,000	大 正 7. 5.
大 正 7. 5.	100,000	昭 和 7. 11.
昭 和 7. 11.	50,000	大 正 13. 1.
大 正 13. 1.	10,000	昭 和 2. 4.
昭 和 2. 4.	20,000	大 正 2. 10.
大 正 2. 10.	11,000	全 8. 5.
全 8. 5.	32,000	昭 和 8. 6.
昭 和 8. 6.	500	昭 和 7. 11.
昭 和 7. 11.	5,000	

合資會社 松本商店	辻	5.343	機械器具販賣業
合資會社 昭和堂小長井時計商店	全	584	時計販賣業
合資會社 南米商事會社	全	729	コーヒー販賣業
合資會社 神戸自動車工作所	全	733	自動車修繕業
合資會社 高田洋服店	全	912	洋服裁縫業
合資會社 大塚製材所	全	930	製材業
合資會社 セーコー自動車商會	全	1.015	自動車部分品販賣業
合資會社 望月兄弟商會	全	1.076	柑橘石油等販賣業
合資會社 井田商會	全	1.350	穀類販賣業
合資會社 神谷石材店	全	1.422	石材販賣業
合資會社 山崎庄十商店	全	1.502	石炭販賣業
合資會社 望月商會	江尻	31	柑橘等販賣業
合資會社 望月商店	全	57	ソーヌ等醸造業
合資會社 萬久呉服店	全	198	呉服類販賣業
合資會社 盛光堂印刷所	全	253/1	印刷業
合資會社 井上清水商店	全	256	酒類販賣業
東海製茶貿易合資會社	全	305	再製茶業
合資會社 栗田呉服店	全	345	呉服類販賣業
合資會社 坪井本店	全	363	洋品等販賣業
合資會社 眞田百貨店	全	365	家具等販賣業
合資會社 春保商店	全	380	料理業
合資會社 金原商店	全	401	古物業
三和製材合資會社	全	431	製材業
合資會社 西子洋品店	全	532	洋品等販賣業
合資會社 高田商店	全	618	全
合資會社 眞砂屋商會	全	664	自轉車修繕業
合資會社 長田酒店	全	689	酒類販賣業
合資會社 吉田書店	上清水	64	書籍販賣業
合資會社 寺尾兄弟製函所	全	465	製函業
合資會社 山田喜作商店	入江	137	穀類販賣業
合資會社 清水興業社	全	348/2	保險代辦業
合資會社 清水ブレーキ商會	全	1.402	自動車修繕業

昭和	6. 5.	1.000	松本貞次
全	2. 10.	1.250	小長井書助
全	8. 4.	1.000	飯田伊平
全	8. 5.	1.500	神戸善太郎
全	5. 3.	1.500	高田高吉
全	8. 6.	40.000	大塚辰平
大正	15. 9.	7.000	寺田忠吉
昭和	5. 5.	150.000	望月益之助
全	5. 10.	4.000	井田一郎
全	5. 5.	2.000	神谷庄吉
大正	10. 1.	10.000	山崎庄十
昭和	8. 9.	2.000	望月良藏
大正	10. 11.	10.000	望月良藏
昭和	6. 4.	7.550	望月育太郎
全	6. 6.	4.000	田畑太十郎
全	7. 5.	20.300	西ヶ谷才治
明治	35. 5.	10.000	石貝才治
昭和	7. 1.	1.000	栗田静子
全	7. 11.	1.000	坪井はつ
全	8. 12.	5.000	眞田千代
全	6. 10.	5.000	平岡保太郎
全	2. 12.	5.000	金原庄一
全	6. 1.	15.000	大塚輝雄
全	6. 5.	3.600	西子勝次郎
全	7. 10.	2.500	高田く
全	8. 3.	3.808	望月覺太郎
全	2. 11.	2.000	長田正一
全	6. 1.	8.500	吉田喜作
全	6. 4.	2.800	池原喜作
全	8. 5.	2.000	山田喜作
全	8. 3.	3.000	内田郁太郎
全	7. 1.	3.500	松井喜三郎

合資會社 鈴與自動車工場	入江 1.402	自動車修繕業
合資會社 清水自動車商會	全 1.402	運輸取扱業
合資會社 清水青果乾物市場	全 1.645	青物市場業
清水構寸合資會社	全 1.913ノ1	構寸製造業
合資會社 マルキタ合劑製造所	全 2.794	農業藥劑製造業
清水製函合資會社	清水 127	製函業
合資會社 大安肥料店	全 148	肥料販賣業
山梨肥料合資會社	全 268	全
合資會社 丸吉回漕店	全 396	運輸取扱業
合資會社 三盛樓	全 508	料理業
合資會社 山平商店	全 583	米雜穀等輸入業
芝榮冷凍冷蔵合資會社	全 604	漁ノ冷凍冷蔵業
合資會社 惠比壽屋酒店	全 736	酒類販賣業
合資會社 朝日館	富士見町二丁目 6	旅館業
壽合資會社	港町二丁目 21	酒類販賣業
合資會社 大木回漕店	築地町二丁目 30	運輸取扱業
合資會社 片山船具店	港町三丁目 30	船具販賣業
合資會社 池田商店	全 二丁目 69	藥品販賣業
合資會社 深江商店	全 81	石材販賣業
合資會社 早川回漕店	全 三丁目 45	運輸取扱業
合資會社 菊菱工業所	築地町二丁目 34	人造毛皮製造業
合資會社 太田烏組	萬世町二丁目 11	土木建築請負業
天城製材合資會社	全 12	木材販賣業
合資會社 安藤商店	全 9	石炭販賣業
靜清土地家屋管理合資會社	全 13	土地家屋管理業
合資會社 三共商會	全 12	味噌製造業
合資會社 海電社	全 18	電池製造業
合資會社 森政材木店	入船町三丁目 19	木材販賣業
合資會社 北川材木店	松原町二丁目 19	全
駿陽織物合資會社	北矢部 76	綿織物業
合資會社 清月堂	村松 1.063	菓子製造業
福鳥製材合資會社	駒越 343	製材業

昭和 8. 5.	30.000	栢 森 賜
全 8. 4.	40.000	全 人
全 7. 5.	20.000	芝 口 虎 吉
全 6. 1.	15.000	堀 川 喜 作
全 7. 11.	20.000	多 喜 六 次 郎
全 6. 11.	3.000	外 岡 松 太 郎
大正 9. 4.	20.000	松 浦 眞 多
明治 31. 12.	50.000	山 梨 重 藏
昭和 5. 7.	10.000	天 野 吉 雄
全 4. 10.	7.000	穴 水 正 一
全 8. 11.	12.000	山 田 平 七
全 8. 6.	30.000	芝 野 榮 信
全 6. 10.	2.000	前 野 準 一
全 8. 3.	2.000	曾 田 三 郎
全 8. 6.	850	加 藤 題 三 郎
全 3. 3.	3.000	大 木 龜 吉
大正 6. 1.	30.500	片 山 七 兵 衛
昭和 7. 8.	4.000	池 田 利 平
全 2. 10.	3.000	深 江 仙 助
全 5. 10.	5.000	早 川 政 高
全 5. 10.	3.000	菊 地 定 吉
全 7. 10.	5.000	太 田 島 萬 太 郎
全 6. 3.	30.000	坪 井 庄 吉
全 5. 2.	5.000	安 藤 半 次 郎
全 8. 4.	1.000	漆 畑 政 吉
全 6. 11.	3.000	山 崎 泰 次 郎
全 5. 4.	13.100	村 田 達 平
全 6. 8.	3.000	森 榮 吉
全 3. 6.	5.000	北 川 春 吉
明治 33. 10.	30.000	渡 邊 庄 次 郎
昭和 6. 2.	3.000	石 上 萬 太 郎
全 6. 6.	20.000	福 島 庄 太 郎

港南製材合資會社	駒越 355	製材業
合資會社三保製材所	三保 533/3	木下駄齒製造業
菱伍製材合資會社	全 3,581/14	製材業
合資會社金指造船所	全 4,010/19	造船業
合資會社岸山製材所	折戸 6	製材業
合名會社青木材木店	辻 736	木材販賣業
合名會社橋本商店	江尻 336	洋品等販賣業
合名會社江鐵自動車商會	全 802	運輸取扱業
合名會社片山製材所	入江 465	製材業
合名會社小川彌平商店	清水 361	穀類販賣業
合名會社清江自動車商會	港町一丁目9	運輸取扱業
鶴之湯合名會社	松原町三丁目8	浴場業
清水飼料合名會社	入船町一丁目16	混合飼料製造業
合名會社遠藤商店	三保 3,282/2/1	穀類等販賣業

工

商號又八名稱	所在地	主要業務
龍東材木株式會社	辻 946	製材業
清水瓦斯株式會社	全 1,253	瓦斯事業
株式會社巴川製紙所	入江 364	製紙業
清水水産株式會社	富士見町二丁目 ¹⁰ ₁₃	罐詰業
清水食品株式會社	築地町二丁目47	全
富士水産株式會社	清水 268	全
兒玉製材株式會社	駒越 260	製材業
株式會社三保造船所	三保 2,894/8	造船業
合資會社大塚製材所	辻 93	製材業
合資會社青木材木店	全 142	全
合資會社石月商店	全 167	製茶業
合資會社神戸自動車工場	全 583	自動車修繕業

昭和 6. 6.	5,000	定石藤吉
全 2. 3.	10,000	井上新太郎
全 2. 10.	10,000	窪田伍祐
大正 9. 2.	100,000	金指丈吉
全 3. 12.	5,000	岸山常太郎
全 6. 10.	5,000	青木庫平
全 6. 5.	17,000	橋本季郎
全 3. 6.	10,000	遠藤金次郎
全 2. 6.	10,000	片山徳藏
全 9. 3.	15,000	小川芳正
昭和 3. 12.	5,000	深澤藤吉
大正 14. 4.	10,000	足立鶴吉
昭和 7. 8.	30,000	小野壽一郎
全 8. 10.	5,990	遠藤頼久

業 (昭和8年末現在)

設立年月	公稱資本金	代表者
明治 31. 5.	65,000	小池文次郎
昭和 4. 10.	500,000	本多長利
大正 6. 8.	1,500,000	井上光治
昭和 7. 3.	75,000	芝野榮七
全 4. 12.	100,000	鈴木與平
全 7. 11.	50,000	山梨重多
全 2. 4.	20,000	兒玉吉五郎
大正 8. 5.	32,000	植田猪吉
昭和 8. 6.	40,000	大塚辰平
全 8. 6.	500	青木勝藏
全 7. 12.	5,000	石月爲吉
全 8. 5.	1,500	神戸善太郎

合資會社 高田洋服店	辻 912	洋服裁縫業
合資會社 望月商店	江尻 57	ソース等醸造業
合資會社 盛光堂印刷所	全 253/1	印刷業
東海製茶貿易合資會社	全 305	再製茶業
三和製材合資會社	全 431	製材業
合資會社 清水ブレーキ商會	入江 1402	自動車修繕業
合資會社 鈴與自動車工場	全 1402	全
清水機寸合資會社	全 1912	機寸製造業
合資會社 マルキタ合劑製造所	全 2794	農業藥劑製造業
合資會社 寺尾兄弟製函所	上清水 465	製函業
合資會社 菊菱工業所	築地町二丁目 34	人造毛皮製造業
合資會社 三共商會	萬世町二丁目 12	味噌製造業
清水製函合資會社	清水 127	製函業
駿陽織物合資會社	北矢部 76	綿織物業
合資會社 清月堂	村松 1063	菓子製造業
福島製材合資會社	駒越 343	製材業
港南製材合資會社	全 355	全
合資會社 岸山製材所	折戸 6	全
合資會社 三保製材所	三保 533/3	朴下駄齒製造業
菱伍製材合資會社	全 3581/14	製材業
合資會社 金指造船所	全 4010/19	造船業
合名會社 岸山製材所	入江 465	製材業
清水飼料合名會社	入船町一丁目 16	混合飼料製造業
合資會社 海電社	萬世町二丁目 6	電池製造業

昭和 5. 3.	1,500	高田高吉
大正 10. 11.	10,000	望月良藏
昭和 6. 6.	4,000	田畑太十郎
明治 35. 5.	10,000	石貝才治郎
昭和 6. 1.	15,000	大塚輝雄
全 7. 1.	3,500	松井喜三郎
全 8. 5.	30,000	柏森
全 6. 1.	15,000	堀川喜作
全 7. 11.	20,000	多喜六次郎
全 6. 4.	2,800	池原喜作
全 5. 10.	3,000	菊地定吉
全 6. 11.	3,000	山崎泰次郎
全 6. 11.	3,000	外岡松太郎
明治 33. 10.	30,000	渡邊庄次郎
昭和 6. 2.	3,000	石上萬太郎
全 7. 5.	20,000	福島庄太郎
全 6. 6.	5,000	定石藤吉
全 3. 12.	5,000	岸山常太郎
全 2. 3.	10,000	井上新太郎
全 2. 10.	10,000	窪田伍祐
大正 9. 2.	100,000	金指丈吉
全 2. 6.	10,000	岸山徳藏
昭和 7. 8.	30,000	小野壽一郎
全 5. 4.	13,100	村田達平

商

商號又ハ名稱	所在地	主要業務
清水港土地株式會社	辻 1227	土木請負業
駿遠鹽業株式會社	江尻 405	鹽元賣捌業
株式會社宮城島酒店	萬世町一丁目54	酒類販賣業
清江木材株式會社	入船町二丁目2	木材販賣業
山明商事株式會社	新港町5ノ4	石炭販賣業
駒越製材株式會社	松原町三丁目23	土地建物貸業
鈴與倉庫株式會社	入船町三丁目12	倉庫業
株式會社清水木材倉庫	全 13	全
駿遠商事株式會社	港町三丁目22	船具販賣業
株式會社清水魚市場	全 四丁目10	魚市場業
清水倉庫株式會社	日之出町一丁目2	倉庫業
清水木材株式會社	新港 5ノ1	木材販賣業
清水醬油株式會社	村松 1.061	醬油販賣業
株式會社不二見實行社	駒越 1.019	金融業
合資會社松本商店	辻 534ノ2	機械器具販賣業
合資會社昭和堂小長井時計商店	全 584	時計販賣業
合資會社南米商事會社	全 724ノ2ノ1	コーヒ-販賣業
合資會社セイコー自動車商會	全 1.015	自動車部分品販賣業
合資會社望月兄弟商會	全 1.076	柑橘等販賣業
合資會社井出商會	全 1.350	味噌等販賣業
合資會社神谷石材店	全 1.422	石材販賣業
合資會社山崎庄十商店	全 1.502	石炭販賣業
合資會社望月商會	江尻 31	柑橘等販賣業
合資會社萬久吳服店	全 198	吳服類販賣業
合資會社井上清水商店	全 250	酒類販賣業
合資會社栗田吳服店	全 345	吳服類販賣業
合資會社坪井本店	全 363	洋品等販賣業
合資會社眞田百貨店	全 365	家具等販賣業
合資會社春保商店	全 580	料理業
合資會社金原商店	全 401	古物業

業 (昭和8年末現在)

設立年月	公稱資本金	代表者
昭和 4. 10.	200,000	佐野 容造
大正 14. 6.	150,000	鈴木 與平
全 13. 1.	300,000	山田 乙吉
昭和 6. 9.	100,000	伊藤 良三
全 3. 4.	60,000	内藤 政登
全 2. 8.	75,000	望月 貞作
大正 7. 5.	10,000	鈴木 與平
全 15. 5.	300,000	鈴木 與平
昭和 7. 3.	50,000	青島 唯一
昭和 6. 9.	300,000	芝野 榮七
明治 29. 1.	100,000	前川 道平
大正 13. 3.	55,000	高塚 龜一郎
全 13. 10.	10,000	山本 大次郎
昭和 2. 10.	11,000	岩崎 大啓次郎
全 6. 5.	1,000	松本 貞次
全 2. 10.	1,250	小長井 書助
全 8. 4.	1,000	飯田 伊平
大正 15. 9.	7,000	寺田 忠吉
昭和 5. 5.	150,000	望月 益之助
全 5. 10.	4,000	井出 一郎
全 6. 5.	2,000	神谷 庄吉
大正 10. 1.	10,000	山崎 庄十
昭和 8. 9.	2,000	望月 貞武
全 6. 4.	7,550	望月 育太郎
全 7. 5.	20,300	西ヶ谷 静子
全 7. 1.	1,000	栗田 静子
全 7. 11.	1,000	坪井 静子
全 8. 12.	5,000	眞田 千代
全 6. 10.	5,000	平岡 保太郎
全 2. 3.	5,000	金原 庄一

合資會社	西子洋品店	江尻	532	洋品等販賣業
合資會社	高田商店	全	618	全
合資會社	眞砂屋商店	全	664	自轉車修繕業
合資會社	長田酒店	全	689	酒類販賣業
合資會社	山田喜作商店	入江	137	穀類販賣業
合資會社	清水興業社	全	348/2	保險代辦業
合資會社	内外青果中央市場	全	1,645	青物市場業
合資會社	吉田書店	上清水	64	書籍販賣業
合資會社	大安肥料店	清水	148	肥料販賣業
山梨肥料合資會社	全	268	全	全
合資會社	山平商店	全	583	米穀等輸入業
合資會社	三盛樓	全	508	料理業
芝菜冷凍冷蔵合資會社	全	608	漁/冷凍冷蔵業	全
合資會社	惠比壽屋酒店	全	736	酒類販賣業
合資會社	朝日館	富士見町二丁目	6	旅館業
合資會社	片山船具店	港町三丁目	30	船具等販賣業
壽合資會社	全	二丁目	21	酒類販賣業
合資會社	池田商店	全	69	藥品販賣業
合資會社	深江商店	全	81	石材販賣業
合資會社	太田烏組	萬世町二丁目	11	土木建築請負業
天城製材合資會社	全	12	木材販賣業	全
合資會社	安藤商店	全	9	石炭販賣業
靜清土地家屋管理合資會社	全	13	土地家屋管理業	全
合資會社	森政材木店	入船町三丁目	19	木材販賣業
合資會社	北川材木店	松原町二丁目	19	全
合資會社	青木材木店	辻	736	全
鶴之湯合名會社	入船町一丁目	16	浴場業	全
合名會社	遠藤商店	三保	3,282	穀類等販賣業
合名會社	橋本商店	江尻	336	洋品等販賣業
合名會社	小川彌平商店	清水	361	穀類等販賣業

昭和	6. 5.	3,600	西子勝次郎
全	7. 10.	2,500	高田く仁
全	8. 3.	3,808	望月覺太郎
全	2. 11.	2,000	長田廣作
全	8. 5.	2,000	山田喜作
全	8. 3.	3,000	内田郁太吉
全	7. 5.	20,000	芝口虎吉
全	6. 1.	8,500	吉田正一
大正	9. 4.	20,000	松浦眞多
明治	31. 12.	50,000	山梨重平
昭和	8. 11.	12,000	山田平一
全	4. 10.	7,000	穴水正雄
全	8. 6.	30,000	芝野榮七
全	6. 10.	2,000	前野信一
全	8. 3.	2,000	曾田準馬
全	3. 2.	30,500	片山七兵衛
全	8. 6.	850	加藤題三郎
全	7. 10.	4,000	池田利平
全	2. 10.	3,000	深江仙助
全	5. 3.	5,000	太田島萬太郎
全	6. 3.	30,000	坪井庄吉
全	5. 2.	5,000	安藤半次郎
全	8. 4.	1,000	漆畑政吉
全	6. 8.	3,000	森榮吉
全	3. 6.	5,000	北川春吉
大正	6. 10.	5,000	青木庫平
全	14. 4.	10,000	足立鶴吉
昭和	8. 10.	5,990	遠藤頼久
大正	6. 5.	17,000	橋本季郎
全	9. 3.	15,000	小川芳正

銀行

商號又ハ名稱	所在地	主要業務
株式會社駿州銀行	辻 202	銀行業

運輸取扱

商號又ハ名稱	所在地	主要業務
清水運送株式會社	新港町5ノ1	運輸取扱業
株式會社天野回漕店	港町三丁目63	全
青木運送株式會社	全四丁目10	全
旭商船商事株式會社	全 10	全
東海商船株式會社	萬世町二丁目15	全
合資會社清水自動車商會	入江 1402	全
合資會社丸吉回漕店	清水 396	全
合資會社大木回漕店	港町三丁目13	全
合資會社早川回漕店	全 42	全
合名會社江鐵自動車商會	江尻 802	全
合名會社清江自動車商會	港町一丁目9	全

業 (昭和8年末現在)

設立年月	公稱資本金	代表者
昭和3.7	2,520,000	青柳市太郎

業 (昭和8年末現在)

設立年月	公稱資本金	代表者
昭和2.3	1,000,000	鈴木與平
大正12.5	50,000	平岡昌一
大正3.3	100,000	望月益之助
昭和2.6	200,000	望月益之助
大正8.5	50,000	中村藤太郎
昭和6.4	40,000	柏森賜
昭和5.7	10,000	天野吉藏
昭和3.3	3,000	大木龜吉
昭和5.7	5,000	早川政高
昭和3.6	10,000	遠藤金次郎
昭和3.12	5,000	深澤藤吉

8 運輸交通

附電氣瓦斯

(1) 概 説

清 水 港

清水港は駿河湾の西端に位し、三保半島によれる折戸湾を拘き、天然の良港として古くより交通の要衝となつてゐた、港内の水深29尺以上を有する水面122萬坪あり大小の船舶の碇泊に適してゐるが、目下第二期修築工事の完成の暁には2ヶ所の繫船岸壁には2萬噸級2隻、8千噸級1隻、3千噸級4隻を同時に接岸し得、更に折戸湾内に3千噸級4隻を繫留し得るので、その際の當港の交通量運輸量の増加は思ふべしである（本文、總説「清水港の現状」参照）

今、昭和8年に於ける入港船舶を調べるとき、汽船に於ては1萬噸級以上11隻、5千噸以上1萬噸以下68隻、千噸以上5千噸以下697隻、5百噸以上千噸以下106隻、5百噸以下隻75計、計957隻、この登簿噸数は2,271,112噸であり、帆船に於ては百噸以下5,312隻、この登簿噸数123,567噸である

當港に旅客の定期航路としては昭和3年迄は東京湾汽船株式會社のものがあつたが、翌4年よりは不定期に寄港することになつた、貨物の定期船としては朝鮮郵船株式會社と秋より冬にかけて北日本郵船株式會社の貨物定期船がある、然して貨物の定期航路は今後急激に増加すると思はれるが、旅客に至つては陸路との聯絡上、尙多少の年月を必要とするであらう

入港する船舶の最も多いのは山下汽船、國際運輸、川崎汽船、勝田汽船、辰馬汽船、三井物産等であつて、夫々滿州、朝鮮、關東州、九州、北海道、沿海州等より大豆、雜穀、木材、石炭、鹽等を入れるのである、本港の最も特徴とするのは何と云つても茶の輸出で、5月上旬より10月末まで巨大船舶が輻輳することである、これらは日本郵船、大阪商船、ダラー汽船、アメリカンメールライン、ブルーファンネル、カナダ大平洋汽船及ロシアの汽船等で前記季節間には合計約130余噸の茶船が入港する

遠からず北海道、上海、大連、臺灣との間に定期航路が設けられんとしてゐる時、本港の運輸量は亦驚くべきものがあらう

鐵 道

本市に發着せる鐵道は東海道線のみで明治22年に現在の江尻驛の設置を見たのである、又旅客は取扱はざるも貨物運送のために清水港驛が明治40年に設けられた、次いで昭和5年2月1日より、清水埠頭驛を開設して貨取扱及び一車積特種扱貨物の營業を開始せられた、清水港驛より清水埠頭驛間は〇哩5分である、今昭和8年の乗降客又發着貨物を見るに、江尻驛乗客605,910人、降客610,784人計1,216,694人で、逐年増加を辿つてゐる、貨物は江尻驛の發送379,936噸、到着47,932噸、清水港驛及清水埠頭驛の發送279,939噸、到着27,920噸、3驛の總計735,727噸であつて、その取扱高は静岡縣下の各驛の筆頭である

電氣鐵道及乗合自動車

本市内に布設された電氣鐵道は静岡電氣鐵道株式會社のもので静岡、安西と本市間及本市と興津間の2線から成り市内布設路長は8.9哩である、昭和8年に於ける乗降客は乗客1,510,422人降客1,549,820人、3,060,242人でこれ又逐年増加しつゝある、又乗合自動車は静岡電鐵の經營に係る江尻驛久能間、江尻驛静岡間及江尻驛興津間の3線並に市内巡環線と江尻驛伊佐布間、江尻驛杉山間、及江尻驛興津間とがある

(2) 道 路

年 次	國 道		縣 道		市 線	
	路 線	延 長	路 線	延 長	路 線	延 長
昭和8年	1	3,921.81 [*]	8	17,580.00 [*]	901	216,508.09 [*]

(3) 諸 車

年 次	荷 積		人力車	自轉車	自動車	軌道人自 動		計
	牛馬車	力貨車				力貨車	自轉車	
昭和8年	80	30	6,580	160	2,465	4	43	9,362
昭和7年	80	31	6,282	158	2,423	4	39	9,017
昭和6年	85	36	6,680	163	1,730	—	36	9,030

(4) 汽 車

年 次	驛 名	旅 客	
		乗 車	降 車
昭和8年	尻 水	605.910 ^人	610.784 ^人
	清 水	—	—
	計	605.910	610.784
昭和7年	尻 水	657.281	660.240
	清 水	—	—
	計	657.281	660.240
昭和6年	尻 水	683.835	683.349
	清 水	—	—
	計	683.835	683.349

(5) 電 車

年 次	驛 名	旅 客	
		乗 車	降 車
昭和8年	清 水	1,510.422 ^人	1,549.820 ^人
昭和7年	全	1,219.646	1,242.904
昭和6年	全	969.287	1,052.102

(6) 船

年 次	汽 船	帆 船
昭和8年	17	12
昭和7年	17	10
昭和6年	20	14

備考 汽機船及ヒ機帆船ハ船鑑札

附 發着主要貨物品名

貨 名	車		發着主要貨物品名
	發 送	到 着	
トシ	379.936 ^{トン}	47.932 ^{トン}	發送
トシ	279.939	27.920	木材、石炭、大豆、大豆
トシ	659.875	75.852	油、柑橘、薪、野菜類、瓦
トシ	264.084	42.609	鮮魚、肥料、飼料、食鹽、
トシ	252.857	20.208	米、大豆、穀、雜穀、セメ
トシ	516.941	62.817	ント、バルブ
トシ	305.212	47.015	到着
トシ	248.992	19.746	薬製品、米麥、石油、木
トシ	515.941	66.761	材、砂糖、肥料、油類、鐵
			鋼及同製品

附 發着主要貨物品名

貨 名	車		發着主要貨物品名
	發 送	到 着	
トシ	9.838 ^{トン}	70 ^{トン}	石炭、材木、鹽、肥料、
トシ	6.936	323	鮮魚、雜穀、セメント
トシ	5.877	882	再製茶等

船 (船籍港清水市ノモノ)

小 船	計
898	927
913	940
893	927

規則ニヨルモノ

(7) 外國貿易

年次	入 港		出 港		計	
	船 數	噸 數	船 數	噸 數	船 數	噸 數
昭和8年	289	1,212,507	289	1,212,507	578	2,425,014
昭和7年	233	1,031,887	233	1,031,887	466	2,063,774
昭和6年	276	1,147,600	260	1,100,301	536	2,247,901

(8) 入 港 船 舶

船 種 別		1 萬 噸 以 上	5 千 噸 以 上 1 萬 噸 未 滿	千 噸 以 上 5 千 噸 未 滿
		汽 船	船 數	11
	登簿噸數	135,962	457,705	1,590,295
帆 船	船 數	—	—	—
	登簿噸數	—	—	—

備考 コノ内、外國貿易船 289隻 1,212,507噸

(9) 內 外 國

年 次	種 別	汽 船	
		船 數	噸 數
昭和8年	商 船	933	2,245,114
	漁 船	—	—
	難 避 船	24	25,598
	計	957	2,271,112
昭和7年	商 船	882	2,108,940
	漁 船	—	—
	難 避 船	19	30,605
	計	901	2,139,545
昭和6年	商 船	867	2,056,401
	漁 船	—	—
	難 避 船	13	16,633
	計	880	2,073,034

出 入 船 舶

輸 出	輸 入	超 過	
		輸 出	輸 入
16,312,475	13,935,667	2,376,808	—
11,625,451	11,784,017	—	158,566
9,879,451	11,573,449	—	1,693,998

噸 數 階 級 別 (昭和8年)

5 百 噸 以 上 千 噸 未 滿	百 噸 以 上 5 百 噸 未 滿	百 噸 未 滿	計
106	23	52	657
78,157	6,453	2,540	2,271,112
—	—	5,312	5,312
—	—	113,567	123,567

內國貿易船 668隻 1,058,605噸

船 入 港

帆 船		計	
船 數	噸 數	船 數	噸 數
2,411	43,841	3,344	2,288,955
2,901	89,726	2,901	79,726
—	—	24	25,998
5,312	123,567	6,269	2,394,679
1,229	47,752	2,111	2,156,692
2,882	73,049	2,882	73,049
—	—	19	30,605
4,111	120,801	5,012	2,260,346
809	46,405	1,676	2,102,806
2,661	72,788	2,661	72,788
—	—	13	16,633
3,470	119,193	4,350	2,192,227

(10) 通 信

年次	郵便局数	電 話		通 常 郵 便		
		共 用	専 用	引	受	配 達
昭和8年	7	20	1,233	2,977,953		3,796,660
昭和7年	7	14	1,206	2,560,399		3,368,773
昭和6年	6	14	1,174	2,625,233		3,841,185

(11) 電

1 電

年次	配電線路長	配電線延長	電柱数
昭和8年	111.36 ^軒	707.30 ^軒	2,271 ^本
昭和7年	95.91	744.67	2,161
昭和6年	84.61	507.20	2,086

2 電

年次	馬 力 = ヨ ル モ ノ		
	馬 力	臺 数	使用戸数
昭和8年	3,553	776	755
昭和7年	3,367	794	684
昭和6年	2,979	756	642

3 瓦

年次	瓦斯管延長	燈 火 引 用	
		戸 数	燈 数
昭和8年	66,994 ^米	51	62
昭和7年	66,821	44	53
昭和6年	66,916	42	44

信

小包郵便			電 信 (内外共)	
引	受	配 達	引	受 配 達
	33,054	52,616	77,366	107,262
	36,023	50,390	69,106	102,470
	35,974	48,675	77,340	114,815

氣

燈

點燈戸数	燈 数	供給會社名
13,225 ^口	41,860 ^燈	東京電燈株式會社
13,697	51,269	全
12,988	47,424	全

力

[キロワット] = ヨ ル モ ノ		供給會社名
キロワット	使用戸数	
910	3	東京電燈株式會社
1,549	6	全
1,952	8	全

斯

燃 料 引 用		供給會社名
戸 数	燈 数	
1,555	2,390	清水瓦斯株式會社
1,517	2,341	全
1,561	2,251	全

9 附

(1) 市の

年次	歳入	歳出		
		経常	臨時	計
昭和9年豫算	671,473	406,458	265,015	671,473
昭和8年豫算	687,063	383,951	303,112	687,063
昭和7年豫算	805,441	390,736	414,705	805,441
昭和6年豫算	743,243	415,016	328,227	743,243

(2) 諸税附

年次	直接国税			間接国税		
	税額	1戸平均	1人平均	税額	1戸平均	1人平均
昭和8年	218,241	17.95	354	737,752	60.69	11.96
昭和7年	195,122	16.58	322	596,934	50.73	9.85
昭和6年	236,459	20.94	427	146,200	12.94	2.64

(3) 職業紹介

年次	所数	求人者数			求職者数		
		男	女	計	男	女	計
昭和8年	1	4,994	1,867	6,861	5,682	1,335	7,017
昭和7年	1	4,561	1,546	6,107	5,549	1,298	6,847
昭和6年	1	2,218	984	3,202	2,648	701	3,349

(4) 清水市

年次	勸業奨励費	産業調査費	實業視察費
昭和9年	2,010	354	100
昭和8年	2,010	270	100
昭和7年	1,900	277	200
昭和6年	2,550	290	300

録

財政

現住戸数1戸平均		現在人口1人平均額	
歳入	歳出	歳入	歳出
5524	5524	1083	1083
5839	5839	1134	1134
7030	7030	1360	1360
6581	6581	1341	1341

擔總額

縣税			市税			計		
税額	1戸平均	1人平均	税價	1戸平均	1人平均	税額	1戸平均	1人平均
252,692	2079	410	345,891	2845	561	1,554,576	12788	2520
211,643	1798	349	325,146	2764	537	1,328,845	11293	2193
197,503	1749	356	331,762	2938	599	911,924	8074	1826

介所成績

再來者数			紹介者数			就職者数		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
1,326	316	1,642	4,494	977	5,471	3,169	720	3,889
1,366	456	1,822	3,955	930	4,885	3,231	720	3,951
554	188	742	1,332	461	1,793	1,179	377	1,556

勸業諸費

氣象警報費	獣疫豫防費	度量衡取締費	計
264	36	366	3,130
188	36	465	3,069
188	40	589	3,294
188	40	755	4,123

(5) 清水港収入（關稅、噸稅、諸收入）比較表

年次	關稅	噸稅	諸收入	計
昭和8年	215,351	63,908	4,200	283,459
昭和7年	286,834	67,212	12,377	366,423
昭和6年	260,894	61,917	12,110	334,921

(6) 度量衡（昭和8年）

種別	検査成績			營業者數	
	受檢總個數	規則器數	百分比	種類	戸數
度量衡器	1,602	168	10.5	度量衡器	5
計量器	3,955	178	4.5	計量器	9
衡器	9,446	532	5.6	度量衡器、計量器	2
計	15,003	878	5.9	計	16

「メートル」法宣傳施設としては(1)宣傳ビラの配布(2)「メートル」商品の販賣(3)換算紙の配布(4)物件の「メートル」表示(5)身長體重の測定等である

(7) 縣下四市市勢比較表（昭和8年）

市	面積	人口	生産總額	全1人當	市財政	全1人當
清水市	1.685	61,695	29,252,734	474	67,473	1088
静岡市	2.469	152,112	35,736,464	235	2,733,110	1797
濱松市	0.950	118,547	50,555,853	426	2,842,050	2397
沼津市	0.883	46,897	9,416,746	208	638,744	1389

全指數比較表

市	面積	人口	生産總額	全1人當	市財政	全1人當
清水市	100	100	100	100	100	100
静岡市	146	247	121	50	407	164
濱松市	56	192	173	90	423	220
沼津市	52	76	32	44	95	128

備考 四市市制施行時

静岡市	濱松市	沼津市	清水市
明治22年	明治42年	大正12年	大正13年

清水近郊案内記

駿河路や花たちばなも茶の匂ひ 芭蕉

元祿七年五月、芭蕉は深川の庵を出て最後の東海道の旅に出た、物のあはれや人の情を身にしみてしみじみ感じられるのは、その頃の日本としては東海道の旅に如くものはなかつた、げに詩人芭蕉が「東海道の一筋も知らぬ人、風雅に覺束なし」と云つたのは無理からぬことであつた、この「駿河路」の句は、最後の吟行を集めた句集「炭俵」の中の名句だが、如何にも駿河の國の風貌を傳へ盡してあまりない、彼は幾度か東海道を上り下りしたのだが、駿河路ほど彼の心を捕へたものはなかつたらしく、或は富士川の岸邊に捨兒の啼きごゑを聞いては「猿をきく人……」と傷心の句を作り、或は静岡在鞍子の宿では「道傍の木槿馬に食はれる」のを見て、愛すべき寫實の大境地を展いてゐる、芭蕉を論ずるもの、かゝる秀句逸事を除いて喋々することは出来ないはずだ

續つてわが清水近郊、即ち清見湯一帯について省みるに、彼が如何にこの地を愛したかを證する事蹟は豊かであつて、後人之を碑に刻んで記念するもの下の如く妙しとしない

西 東 あはれさおなじ秋の風 (興津 清見寺内)
雲霧にしばし百景をつくしけり (清水市 鐵舟寺内)
けさ散りし甲斐の紅葉や田子の浦 (清水市 福嚴寺内)

東海道、それは人も知る五十三次、江戸京都を結ぶ百廿三里の街道、近世日本の文化の華はこの街道を中心として絢爛と咲いた、而しながら東海道を特色づけるものは、かゝる移りゆく文化の上にあつたのではない、それは大自然富岳の偉容であらねばならぬ、否富岳は単に一東海道の存在ではなく、全日本の精靈が凝つて凝つて一團となつた存在だ、その昔——敢て古きを問はない現在でも——この東海道を往來するものゝ胸には、富士の秀麗は必ずやさまざまな感情の波を立たせずにはおかなかつた、老ひも幼きも貴きも貧きも、その巧みなものも、拙きものも、なんと夥しい人々が富士を歌ひ、富士を詠み、富士を畫いたことか、まこと富士こそはわが國民の藝術心の象徴だつた

かゝる時、今諸君が富士の鑑賞の最善の場所を問はれるならば、吾人は言下にわが清水市を中心とする清見湯一帯を擧げるのを躊躇しないであらう、何となれ

ば汗牛充棟たるならぬ富士の歌句は、殆どその半ばをこの清見潟に集中されてゐる有様だからである

清見潟の名はいま吾人の贅言を要せず、普く人々の耳に親しいものだが、筆を進める都合上、高山樗牛の「清見潟日記」から引いてみるならば「薩埵の岬のあなた、興津川の口より袖師、江尻の長汀をこめて清見潟とぞいふなる」とある

「註、薩埵の岬——興津の東外れ、昔は箱根につぐ難所といはれたところ

袖師——興津町、清水市との間に横たはる、海濱の村落、海水浴場として聞えてゐる

江尻——清水市の一部、東海道五十三次の内の一驛」

これを更に別な言葉に翻譯するならば、諸君がコンパスの中心をわが清水市におき、半經約數哩の圓周を陸地に畫いて見給へ、如上の地を初めにして三保松原有度の山々、久能山附近等が含まれるのだが、これ等の地一帯とそれに沿ふて展開される蒼海一圓を清見潟といふのである

「……三保の入江おぼろにけぶりて、有度山かげやうやうにうすれゆく頃雲いろいろの夕暮の空にながめりて、われや行方もしらぬ思ひに幾たびか立ちつくしけむ、夜靜かにして磯打つ波のかすかに間遠うなるにつれ、わが胸のあへぐが如きこそあやしかりけれ、われはこのあやしき默思を友として三月あまりを夢に暮しき、げにあはれにもまた楽しき夢なりき……」(樗牛、清見潟日記)

樗牛が如何にこの清見潟を熱愛したかは、幾多の文章に現はれてゐるが、當時

「太陽」誌上に盛んに海に關する論文を出してゐたがこれらの奇警な文章は皆彼が肺患を養ふてゐた興津一碧樓の離れ座敷で日夜清見潟の海の色を眺めつゝ出来たものだ

清見潟の海の風光、そは飽くまで柔媚、漂渺、空濶、いかに古來より騷人雅客の心境を開拓したことか

正岡子規は深く此地を愛し「林檎食ふて牡丹の前に死なんかな」の句を作つた後、更に又數年の壽を保ち、愈々死期の近づくのを知つては、口癖のように、興津でかの大海を望んで死にたいと云つてゐた

諸君は又、かの結構遠大なる大衆小説「兒雷也物語」が實にこの清見潟一帯を取り入れることにより、俄然、一新天地を展開したことを知つてゐるか

馬琴の後を繼ぐといはれた柳下亭種清は屢々東海道を旅行し、たまたま薩埵岬より清見潟一帯の絶景をみて深く感じた、之を無臺にして雄壯なロマンスを描いたなら、といふ考へが油然として湧き、かの兒雷也物語を書いたといはれてゐる

元來、兒雷也のモデルは信濃、越後の山間に實在したのだが、突如として駿河の大海戦を捕へきたつたのはこれが動機といはれてゐる

かくの如く清水市近郊が近世の小説稗史の舞臺にのぼり、文人墨客の友となつたことは數が多く、就中巷間に知れ渡つてゐるのは十返舎一九の「膝栗毛」であらう「膝栗毛」ほど東海道の地理風俗を描き盡したものはなく「膝栗毛」ほど當時の世態人情を寫しきつたものはない、こは決して滑稽小説として葬るべく餘りにも貴重な文献である

當市江尻は五十三驛の一として港の清水と共に古くより知られてゐた、江尻、辻の兩町は今でこそモダンな裝飾に夜もなほ晝の如く明るいのだが、然しどことなく古い宿場の懐しい色を漂はせてゐる、兩側に軒を連ねた商家には三百年の傳統を現はす何かがある、辻町を外れるともう、あの懐い街道の松並木がある

この江尻の外れ、今の辻町のあたりの茶店に入つてわが彌次郎兵衛と喜多八の兩君は、俄雨をさけながら黄粉團子をばくついたのであるが、それは黄粉と見せかけて實は糖をつけたものだつた、やがて雨が霽れて江尻に入り、馬子と客との愉快なやりとりの話をきながら「大に興に入り、歩むともなしに府中の宿に着き」「金子の才覺測ひて……今宵は聞き及びし安倍川町へしけこまんと」勇み出したことが、面白可笑しく書いてある

こゝに面白いことには作者が兩人とも駿河の人間にしてゐることで、彌次郎兵衛は府中(静岡)喜多八は實にわが江尻の人間であつた

次に畫家は清水をいかに描いたかを思ふとき、吾人は先づ初代廣重を挙げねばならない、彼は數度、東海道を往來し、特に清見潟の長汀曲浦はその畫紙に寫實の奥妙を描寫してゐる、彼の版畫の中、江尻や三保松原等の畫はその數七十に垂んとしてゐて、彼がこの地を紹介せんとする努力はその當時は勿論、後昆に到つても鮮やかに印銘されてゐる、現代に於ては巨匠和田英作畫伯が屢々畫架を携へて來遊されるので有名である

當市近郊の紹介は筆者の拙管を以てしても尙盡きることを知らない、即ち大清水パノラマを形成する名跡勝地は改めて稿を起すとして、最後に徳富蘇峰學人の詩を紹介し、危く蛇尾に終るのを免れたい

日月雲烟往又還 青霄漂渺是仙寰
名山不作不平色 白髮昂然天地間

この蘇峰がこの地を愛するのあまり、大正十三年自ら碑を市内杉原山に建てて彫つた詩である

三保の松原

「風早の三保の浦曲を漕ぐ舟の……」と謡曲羽衣によつて、その心にくい傳説を著く知られてゐる羽衣の松のあるところとして、三保の松原は古くより著名である

三保は市の東南に斗出する一大沙洲にあり、大正七年實業之日本社撰するところの新日本三景に三保の松原は加へられ、越えて十一年三月内務大臣より名勝地として指定せられた、今更吾人の贅言を待たずとも、その風光の美は市井幼童の口にするところである

清見瀉不二の烟や消えぬらん月影みかく三保の浦風 鳥羽院
清見瀉磯山もとは暮れそめて入日のこれる三保の松原 藤原家隆

立琴や三穂の松原それながら 蓼 太
春の夜の三保の松原烟立つ 子 規

三保の松原の特色は何といつてもその海岸線の描く長く、且つ坦々たるところにあらう、一つの巖をとゞめず、些の屈折も見なく、三哩の長きに亘つてゆるやかな線を描いてゐる、この海の線に對して空を限るものは、何ものにも遮ぎられずに立ち並んだ數百年の松の縁だ、或は高く或は低く、直なるもの曲れるもの、その氣色窈窕として三千の美姫思ひ思ひに歌舞するに似てゐる

然し三保を語つて富士を論ぜずんば、龍を描いて晴を點ぜざるに等しい、げに三保の松原より眺める富士の秀麗こそ王者の中の王者だ

富士が根はつきるものなし久方の天ゆ傾きて海にいたるまで
鳥木赤彦

この歌の示すやうな富士は三保でなければ見られない

羽衣の松は松原の南濱にその巨枝を伸べてゐる、一に衣掛の松とも云ひ、漁夫伯梁のために舞曲を演じた天女がその羽衣を掛けたといふ傳説はよく人口に膾炙されてゐる、この傳説を詳述した享和の古碑「羽衣天女之碑」(明治四十四年再建)が樹下に立つてゐる

有度濱に天の羽衣昔着て振けむ補や今日の羽振子

能因法子

世にしらぬ眺めなればや天人の天降りにし三保の松原

鳥丸光廣

この松より六町の東南に縣社御穂神社があり、犬巳貴命、御穂津姫命を祀つてゐる、その創建は極めて古く、或人は神代に既にその存在を見たといふ、然して景行天皇以前に既に存在してゐたことは「日本總國風土記」に日本武尊が東征の際當社に詣つて圭田五百畝を献じたといふことに依つても知ることが出来る、兎も角、延喜式内の古社であり、寛文八年炎上以前のもものは(家康公造營)丹碧の美を極め、本社、拜殿、廻廊等現在の静岡淺間神社に匹ふ程の壯觀を呈したものといはれてゐる、什寶としては大正十年國寶に指定せられた鈴木三郎重家の帶せし無銘糸巻の大刀、天女の羽衣の切端等がある

三保は又好適の海水浴場として有名で、夏ともなれば都人士は陸續とやつてくる、海水浴場に隣接して二つの飛行場があり、東京大森との間に定期の旅客輸送がある

大俠治郎長の墓

東都の講釋師神田伯山が「清水の次郎長」を読み續けると、十町四方の他の寄席はがら空きになるといふ、まこと次郎長は一清水の俠客たるには餘りに大きく全日本を代表する快男子であつた

次郎長、本名は山本長五郎といひ文政三年正月元旦 清水美濃輪船乗三右工門の子として生れ、幼少より米穀商次郎八の許に養子となつた、次郎八の家の長五郎といふところより、人呼んで次郎長といつた、腕白小僧の彼はもとより米屋に甘んずる筈はない、少年の頃より諸所を流浪し、俠客なる修業を積んだのであつた、然し講談映画芝居等に於てはたゞ彼を華やかな博徒の親分に祭り上げてゐるが、彼は一介の俠客たるべく餘りにも先見發明に富んだ當時の新人だつた

明治初年、未だ人が蒸汽船を嫌つてゐる時、彼は清水の廻船問屋を歩き廻つて蒸汽船を來させて、他日開港場となる基礎を作つた、同じく三年には江戸から英語教師を伴つてきて、地方青年に開眼を促した、或は又我邦の囚人が徒らに幽閉されて何等生産的事業にたづきはらないのを悲み、自ら進んで多くの囚人を貰ひ

受け富士の裾野の荒野を開墾した、とまれ彼は當時の新人だつた

又如何に彼が陛下の忠良なる臣下であつたかを示す例は、物情騒然たる明治維新の際、乾分一千人を率ひて伏谷判事の下知の下に駿遠三、三ヶ國の治安維持につとめた事を以つても知られる

市内港橋の東二町巴川に添うたところに一幹の古松があり、その根本に次郎長が建て、山岡鐵舟が題字を書いた「壯士の墓」といふものがある、時は明治元年九月のことである、幕府の軍艦成臨丸が颶風の爲に清水港に漂流した時官軍は之を襲撃し成臨丸を捕獲し、艦員の死屍を投棄した、海には幕兵の死屍が數日の間浮き漂うてゐたが、後難を恐れて誰一人それに手を觸れるものがなかつた、それを見て奮然と起つたのが次郎長である、彼は大勢の乾分を指揮して自ら小舟に乗り海に漂うた屍体の一つ残らず片付けて之を巴川畔の古松の下に繋めて厚く葬つた、人々は禍の及ぶを憂へた時「官軍も幕軍もどちらも國家のために働いてゐるに變りがない、而も死すれば皆佛だ、もしこの人達の死骸を葬つた爲に御咎があるならば自分の一命を差し出して申譯を立てる」と彼は莞爾として答へたのであつた、げに彼の全貌を蔽ふものは膽そのもの意氣そのものであらう

このことが山岡鐵舟の耳に入り二人は忽ち意氣相投じ、莫逆の友となつた、鐵舟が鐵舟寺を建立するのに次郎長も與つて力があつた、彼の名が次第に現はれるや軍神廣瀬中佐や小笠原長生子が其候補生時代に屢々彼を訪れて話を聞くのを喜んだことは有名であつた

或時、鐵舟はその雄渾の文字を奮つて「精神満腹」といふ額を送つた「鐵舟先生から度胸免狀を貰つた」といつて次郎長にどの位喜んだか判らない、まこと世態浮薄、精神空腹を訴へるの時、この文字の暗示するところ深きものがあらう

斯くの如く彼は多くの逸話を残しつゝ、明治廿六年六月十二日七十四歳の天壽を完うして逝つた、墓は下清水の禪刹梅蔭寺にあり、墓銘は時の海軍大臣榎本武揚の筆である、その隣りに彼の妻てふの墓及び「清水港は鬼よりこはい、大政、小政の聲がする」で有名な、乾分大政、小政及び仙右工門の墓が並んでゐる、又近年彼を敬慕する同志相集り、境内に銅像を立てた、次郎長は床几に腰をかけ右足を前に出し、先方をにらむやうに見てゐるのだが、体軀あくまで魁偉、風貌凡ならざるに驚くものがある、とまれ梅蔭寺は清水名所の尤なるものになつた

妙音寺區の風光

清水の名勝といへば誰も先づ龍華寺、鐵舟寺に指を屈せざるを得ない、これらは市内妙音寺區に約一町を隔てた近くに隣接し、共に其風光絶佳なるを知られてゐる、その昔、僧行基、當國を巡錫し、補陀落山久能寺を建立した際、同時に當市矢部の地に妙音寺を創建し久能寺に屬せしめた、蓋し鐵舟寺、龍華寺のある一帯を妙音寺區と稱するはそれによるのである

中世の傑僧、雪舟和尚、明の皇帝に謁見の際、日本第一の絶景を問はれたが、彼は直ちにこの地、妙音寺區を擧げて答へたことは普く知られた逸話である、詩人村松晩村の詩に、彼の友備前人服部洪齋の言葉がのつてゐるが、それによると彼は盡く天下を周遊したが「奥之松島、丹之橋立、藝之宮島」は壯麗奇異喜ぶべきものがあるが、「山意水情鼓舞人心者」無く、これらは三奇と謂ふべきも三景とは謂はれない、自分の見るところによると「則駿之龍華寺實天下第一絶觀也」と感嘆之を久しうしてゐる

若し夫れ、鐵舟寺、龍華寺の上より清水港は俯瞰せんか、人は眼前の大パノラマの美に酔ひ、造化の妙に魂を奪はれるだらう、左手には白皚々たる富岳が女神の如き温容を見せ、遠く函嶺、愛鷹、近くは薩埵、興津の山々をその裾に従へてゐる、畫面の右は三保の白砂青松碧水に浮遊し、渺茫たる伊豆半島の遠景に相對して駿河灣を二つに限つてゐる、この双眸に映する江灣風趣は宛然一幅の畫圖であり「吟杖一度到らば百憂頓に消え、遊履先づ踏んで萬感忽ち生ずる」の形容もまた必ずしも誇張ではない

鐵舟寺

鐵舟寺は臨濟宗の名刹である補陀落山久能寺の廢寺となつたのを悲み、明治十六年山岡鐵舟居士が再興したものである

なみだのみかきくらさるゝ旅なれやさやかに見よと月はすめども

西 行

この歌は旅人西行が諸所を流浪した際、當寺が久能にあつた際訪れ「久能の山寺にて月をみて」と題して詠んだものだ、本尊は家康の持念佛だつたといふ愛染明王である、久能寺所屬の堂宇、佛像、經卷、什寶の殘有せるものを擧げて繼承したが、就中、待賢門院御筆の法華經信西入道筆の觀音菩薩行經は國寶に指定せられ、又明治天皇御祭服一領昭憲皇太后御手袋をも秘藏してゐる、山來この寺は

高僧傑士の出たことを以て有名であり、かの聖一國師もその出身である

龍華寺

龍華寺は、鐵舟寺の南隣にあり、日蓮宗に屬し寛文十年甲斐本遠寺第四世日近大僧都の創立に係り、十界曼荼羅を本尊としてゐる、傳ふるところによると開山上人は紀州頼宣卿の御生母おまんの方の甥だといふ

什寶としては、龍華寺と題せる東山天皇の第五皇子御染筆の勅額、東山天皇の神鏡、雪舟の十二畫幅、晋の王羲之筆集字等がある、又當寺にはひろく宇内に誇るものが二つある、一つは二坪に餘る仙人掌（サボテン）や四坪の廣さを有する大蘇鐵で、勿論日本一のものだ、皆天然記念物として内務大臣の指定を受けてゐる

他の一つは明治の文豪高山樗牛の墓である、彼の有名な標語「吾人は須く現代を超越せざるべからず」と刻んだ大理石の墓は庭内眺めよきところにあり、最近彼の銅像が同じ場所に建てられた、樗牛は清見瀉一帶の風光を愛し、久しく興津に病を養ふたことは前述せる如くであり、龍華寺に彼を葬つたのはその遺言に基づくのである

日本平

日本平は當市有度山の頂上を云ひ、海拔三百十米、龍華寺道路南端より自動車登山道路あり約一里十五町で頂上に達することが出来る、又草薙驛よりも登山道があり頂上まで約一里弱である、こゝは日本武尊御東征舊蹟十四ヶ所の一である、長くも尊がこの頂上に登つて四方を眺め給ふたといふ、近時その展望の廣濶なること内外に響き渡り、かの大毎、東日の選んだ日本百景の一に數へられたことは普く知られてゐる

南は洋々たる太平洋を望み、東には愛鷹、箱根、天城の諸山指呼の間に連亘し富士はその間、王者の如く聳へ駿河灣は宛ら伊豆半島に抱擁せられて庭池の如く西は用宗の奇勝大崩より安倍彥科の諸川を望み、静岡、清水兩市は勿論、興津、岩淵等は脚下に羅布してゐる

又九十九折の斷崖を南降すれば久能山東照宮に出る、更に晴天を恵まれる時は或は遠州御前崎が烟波の中に見え、或は遠く甲州の連峰波の如くに起伏するを樂み、まこと造化の妙に感嘆せざるを得ぬ宇内の大觀だ、こゝを以て鐵道省は近年東海道隨一の眺望として大に宣傳し、老幼婦女子と雖も四季折々の風光を樂むべく登攀する、又よく外人が清水港碇泊の時間を利用して登るのを見受けるのだが

如何に廣くその風光の雄大を愛せられてゐるか判ると思ふ

山麓に縣社草薙神社がある、日本武尊が賊に火を放たれて叢雲の劍を脱いで草を薙いだといふ傳説のある處で、景行天皇東國御巡幸の際親しく日本武尊を祭られたものである

境内は杉、檜、松等の老樹につままれ、門前の東には柳ヶ澤の流れがあり、如何にも鬱乎森嚴である、特にこゝの名物とされてゐるものは大楠樹であつて、現在では幹は朽ち果て、僅に外皮を残すのみだが、然し枝葉は蒼々と繁茂してゐるこの神木の周圍一丈八尺、高さ八丈二尺餘、樹齡測り知る可からざる珍しい老樹である、駿國雜誌にこの樹の空洞の中で三間柄の槍を自由自在に使ふことが出来ると書いてある

久能山

家康が鯛の天ぷらを、而も大きい奴を一度に二枚もペロリと平げた爲めに、元和二年四月十七日駿府城内に死んだことは有名である、彼は激しい胃痙攣の苦痛の中にありながらも、よくいろいろと後事を策し、特に本多正純等を召して「我が死後は久能山に葬つて神と崇め、三年の内に下野國日光山に改葬すべし」と命じた、翌々十九日夜、榊原照久は遺命に依つて自ら齋主となり、久能城本丸の趾に家康の遺骸を埋葬し、直ちに社殿造營の事業が開始され、翌四年十二月八日に至つて善美を盡した靈廟が完成した、かくて臣下としては唯一の宮號を賜り、別格官幣社東照宮と稱せられた

東より照す光のこゝにありてけふもうでする久能のみやしる 徳川家光

清水より駿河灣の海濱に沿ふてゆくこと二里にして、當山は海岸間近に屹立してゐる、こゝは全然一個の岩石より成り、削り成す石礎は繞り圍つて實に千五百十九を數へ、下から仰げば宛然算盤を斜に立て並べたようである、而もところどころに山門があつて如何にも水滸傳に見える山砦そのまゝである、海拔二百八十米の頂上には一萬六千五百餘坪の平地があつて、家康の靈廟を初め華靈典雅なる樓門、本殿、拜殿、唐門、神樂殿がある、皆所謂權現造の粹を極め、特別保護建造物となつてゐる

寶物として見るべきもの數を知らず、中にも大臣門に掲げられたる勅額と拜殿に於ける三十六歌仙の額とは何れも後水尾天皇の宸翰に屬し、その他東照宮遺品の三池の太刀を初め、太刀、脇差等の國寶に指定せられたるもの十五品の多きに達してゐる、又別に寶物館を設け、東照公の眞蹟、遺愛品、夥しき太刀甲冑等を陳列し、一般の觀覽に供してゐる

時は人皇三十四代推古天皇の御宇、太政大臣尊良の次男、久能忠仁公がこの山に堂宇を構え久能寺と稱し、閻浮壇金五寸餘の千手觀音を安置した、これが鐵舟寺の前身であつたことは、その項で述べた、當時に於ける久能寺の勢力は素晴しいものであつて、一時は僧舎三百六十坊、衆坊一千五百人と稱せられたが、嘉祿年間山火に罹つた

その後武田信玄が駿河を畧し、この山の險要を見て築城なし、今福丹波守をして據らしめたのだが、天正年間、丹波守が家康に降つてより徳川氏の有と歸した傳ふところによると、武田氏の時初めてこゝを發見したのは山本勘介であるとなし(不思儀にも山上には井戸があり、これを勘助井戸と呼んでゐる)糧食さへあれば百夫能く十萬の敵に對して幾年でも支へることが出来、殊にこゝは他と全く離れて、前方海岸側より以外に攀ち登る場所がないといふ、天下絶無の險害の地である、政畧的の家康が如何に此地を愛したかは想像に難くない、生前しばしば登攀遊覽して手づから植木等を植えたりした、眺望の壯、輪奐の美、吾人は未だこの神社に優る神社あるを聞かない

椿咲く久能の御坂の七曲り曲りて來ればきゞす鳴くなり 落合直文

興 津

當市域を北に離れて袖師海岸をすぎ、波多打川を渡れば興津に入る、興津は人も知る東海道五十三次の一、町は一筋の帯の如く、山に倚り海に臨み、三保松原の白砂青松を呼ばば應へんとするところに眺め、古來風光の絶佳は詩に歌に盡きるところを知らない、加ふるに氣候の溫暖、海岸の風趣は東海道有數と謳はれ、西園寺公の座漁莊、井上候の別邸を初め名士の別莊が多く、夏ともなれば近縣から海水浴客が押しかける

興津の清見寺か、清見寺の興津か、と云はれるほど清見寺は餘りにも有名である、寺號を巨艦山清見興國禪寺と稱し、京都妙心寺派に屬する東海隨一の巨刹である、その創建は遠く千數百年前、天武天皇の御宇に溯り、當時の本尊は觀音菩薩であつたといふ、偶々足利氏の戦亂に遇ひ、悉く兵燹に罹つて灰燼に歸したが足利尊氏は痛く之を憂へ、再び當寺を造營し、興國の二字を寺號に加へて關東十刹の一に列せしめたのである、今、客殿には彼の座像が安置されてある

天正、應長の頃、住持大輝和尚は豊臣秀吉、徳川家康の知遇を得、その資助によつて大に殿堂の修築をなし、今日誰しも驚くところの大伽藍の基礎を造つたのである

きよみ寺ゆくてにうつる花の色いくほどもなくもみぢしにけり 豊臣秀吉

この歌は天正十八年、秀吉が關東伐征に赴く途次、當寺に宿泊したが余りにも景色が佳いのが心になつて、五六日逗留した時詠んだものである

家康も又朱印二百石を當寺に附した、現在の本尊釋迦牟尼如來は彼の女靜照院の寄附に係るものだといふ

明治天皇御東幸に際し、畏くも聖駕を當山に枉げさせられたことは有名であり爾來、英昭、昭憲兩皇太后、大正天皇、皇太后陛下の行幸啓を抑ぎ、當寺の光榮は多いのである

寺寶としては今川、武田兩家の古文書、楠正成所藏の梵字見台、辨慶の書いたといふ大盤若經、利久の涙の茶杓、清見ヶ關の遺物等あり、これらは寺僧に乞へば心置きなく見せてくれる

さやかなる名をばとゞめて清見瀉かたぶく月に關守ぞなき 中臣祐殖

往古、清見ヶ關のあつた場所は現在の清見寺の門前だつたといふが、今は廢滅してその影をとゞめない、僅に關屋の里といふ名稱がその附近にある、然しこの關所の草創は極めて古く、天武天皇の白鳳年間に設けられたものだといふ

終りに讀者はかの有名な興津たいの名を思ひ出すだらう

このあたりもみぢめづらし興津鯛 馬 琴

内侍所奉安の遺蹟

慶應が明治となり、江戸が東京と改められ、國を擧げて更新の歡喜に渦巻いてゐる九月廿日、風轉は肅々と京都を發して東へと進み、翌月五日、畏くも江尻宿(現當市江尻)に御駐泊せさせ給ふた

今當時の古蹟を尋ねると、當江尻魚町、寺尾與右工門方を行在所と定め、三種の神器を奉齊せる内侍所の鳳輦は、別に假殿舎を魚町稻荷神社境内に造營し奉安した、この夜の町民の光榮歡喜は譬へるものもなく、徹夜篝火を燃いて御警衛申上げたと云ふ

其後この殿舎は稻荷神社へ下賜せられ、保存せられてゐるが、今般、聖上陛下當市御臨幸を記念し、この意義深き明治年間の遺蹟は往時の元形のまゝ、同神社に保存せらるべく、諸種修繕工事を起し、先般盛大に落成式が舉行された

かくてこの魚町稻荷は清水市名所の尤なるものとなつたのだが、この稻荷神社は武田信玄が當地に小芝城を築いたとき、勸請して祭つたものである

小 芝 城 趾

小芝城の趾は市内江尻町字小芝の地にある、縣道北海道に沿ひ、巴川に臨む一

帯の丘を云ふのだが、現在では往昔の旺んな經營を偲ぶ跡はない

武田三代記に依ると、永祿十二年信玄が馬場美濃守に命じて地を相せしめ、今福和泉守を奉行として築城せしめたものである、武田氏亡んだ後は徳川氏に屬し家康亦甲州よりの歸途この城に滯泊したことが家忠日記にあり、戦國時代には幾多の將星が去來し、地勢亦頗る要衝、當時は非常に重大な役割を演じた城である

筆者はあたかも通りすぎの旅人のように、清水近郊の一帶を一瞥してきたのだが、之等の外に海水浴場として名高い袖師ヶ浦、清水の寶塚とも云はれる狐ヶ崎遊園地、梶原景時一族が最後を遂げたといふ古蹟、淨瑠璃「朝顔日記」の女主人公朝顔こと秋月の娘深雪の墓があるといふ法岸寺、其他史實の興趣そゞろに湧く神社佛閣は尙十指を屈するに余るのだが、限られたる紙數は之等幾多の名勝舊蹟の叙述を割受しなければならない

清水近郊案内

(江尻驛よりの里程及自動車賃金表)

行先名	里	程	賃貨	切金	乗賃	合金	所時	要間
鐵舟寺	4.687	1.07	.80	.20			20	
龍華寺	4.596	1.08	.80	.20			20	
日本平	7.848	2.00	2.00	—			50	
次郎長の墓	2.507	.23	.50	.10			15	
羽衣の松	8.393	2.05	2.00	.30			40	
御穂神社	7.848	2.00	2.00	.30			40	
清水燈臺	8.938	2.10	2.00	—			50	
久能山	9.810	2.18	2.00	.35			40	
三保飛行場	9.047	2.11	2.00	—			50	
三保海水場	9.265	2.13	2.00	—			50	
狐ヶ崎遊園地	3.924	1.00	.80	.10			25	
美濃輪稻荷神社	2.180	.20	.50	.10			10	

清水及江尻三保間渡船賃

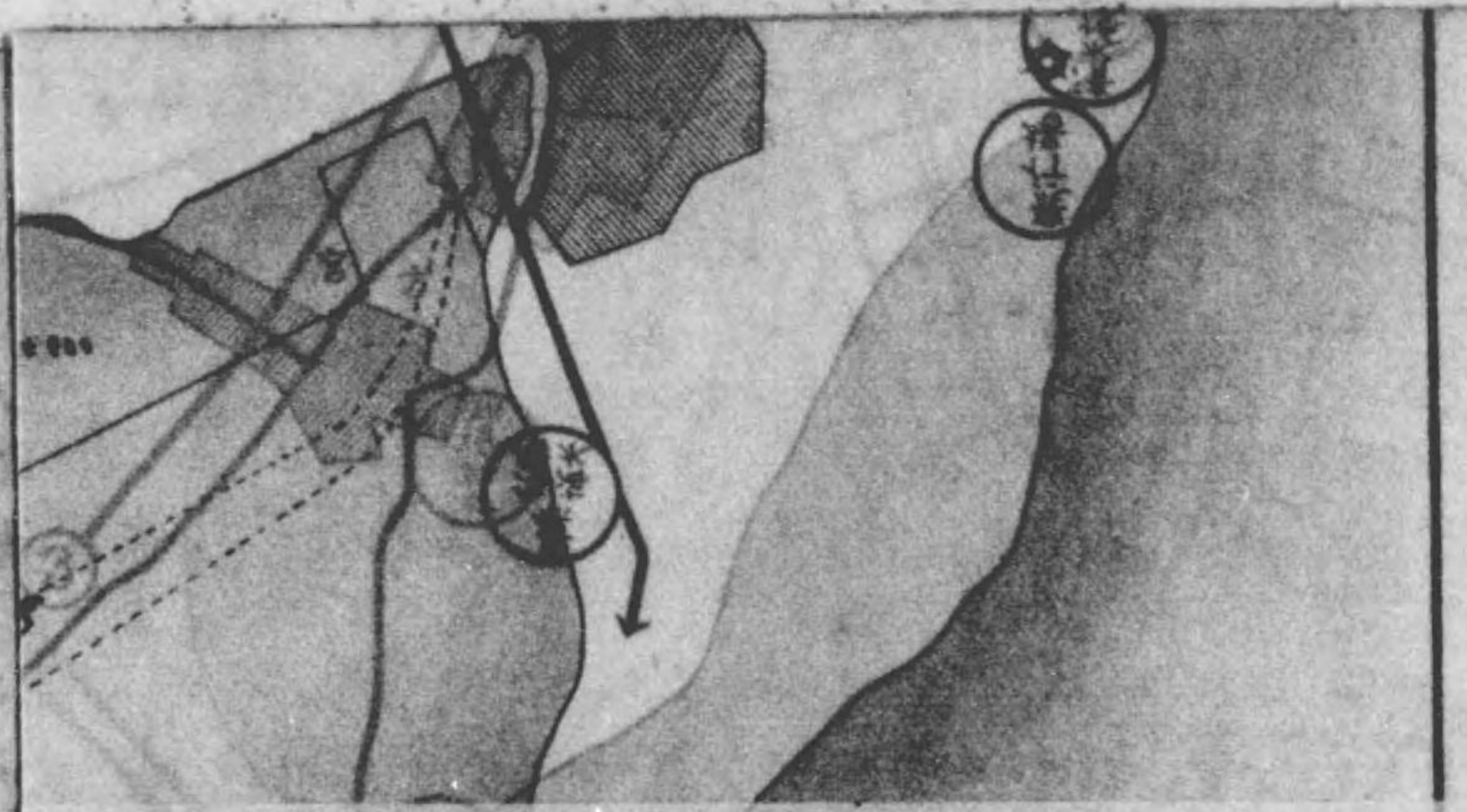
江尻波止場三保本村間	片道	10錢	往復	15錢
清水波止場三保本村間	同	10錢	同	同
清水波止場貝島塚間間	同	10錢	同	同
清水港橋折戸駒越間	同	10錢	同	同
清水松井町三保辨天間	同	5錢	同	同

昭和九年十月十五日印刷
昭和九年十月二十日發行

清水市役所

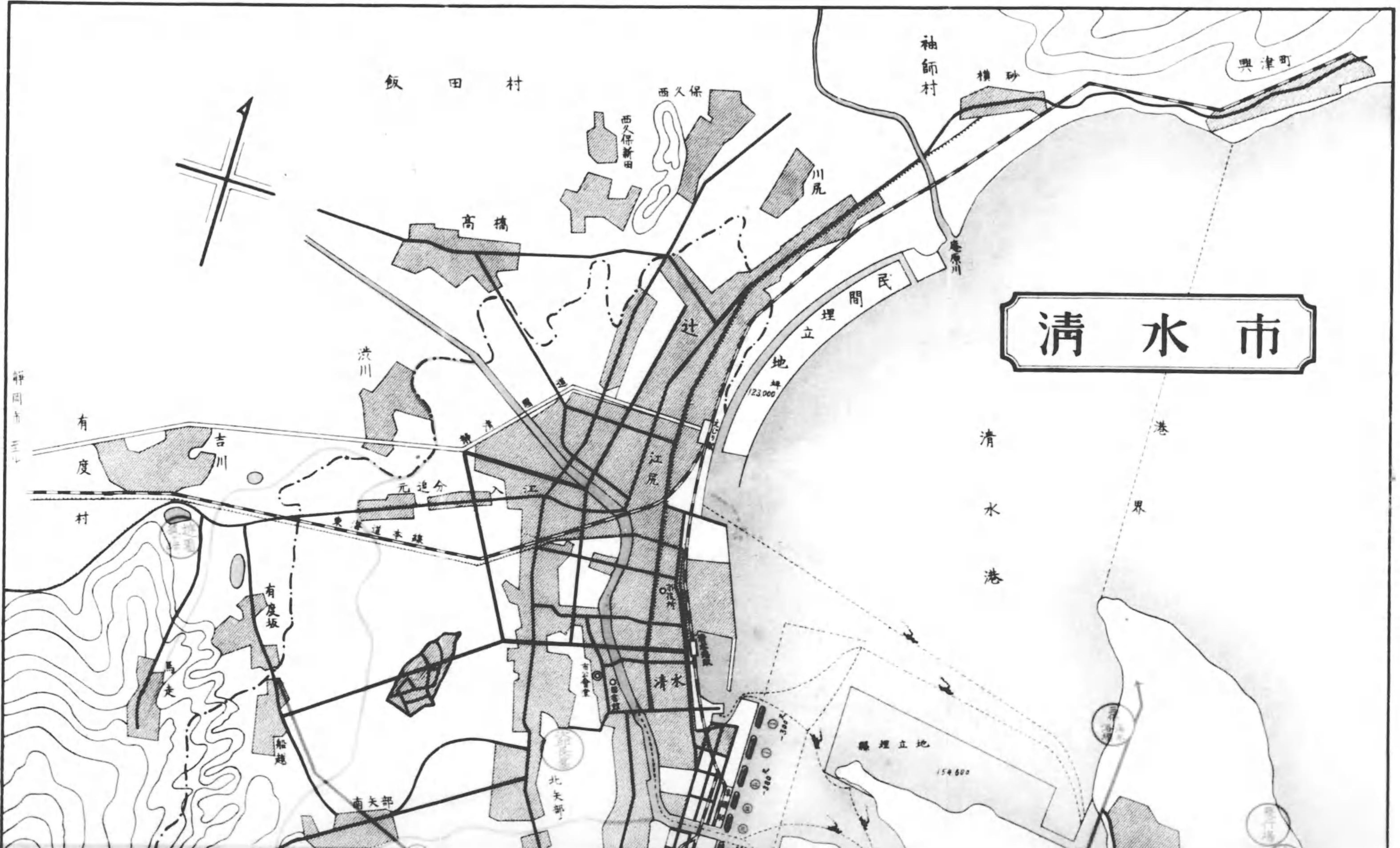
清水市江尻五四三
印刷人 磯田長作

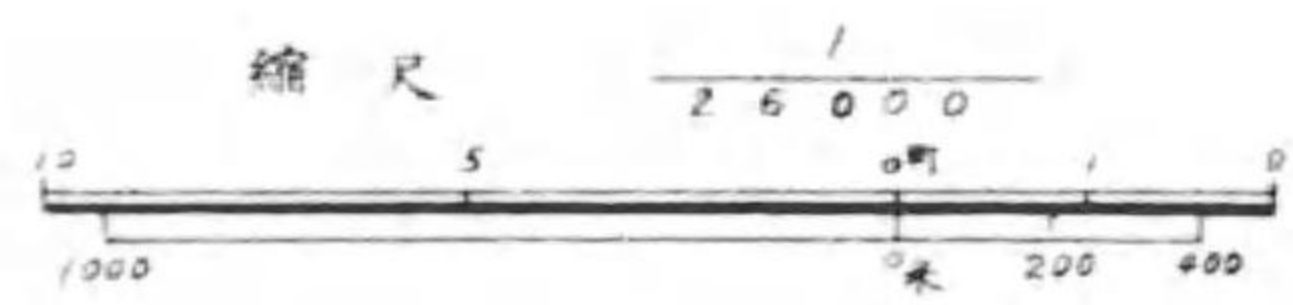
本圖係根據最新測量資料繪製，其內容如下：
 一、本市全境之自然環境，包括地形、地質、水文、氣候、土壤、生物等。
 二、本市之行政區域，包括區、鎮、鄉、村之界線。
 三、本市之交通網絡，包括公路、鐵路、水運、航空等。
 四、本市之人口分布，包括總人口、性別、年齡、民族等。
 五、本市之經濟發展，包括農業、工業、商業、服務業等。
 六、本市之社會文化，包括教育、醫療、體育、藝術等。
 七、本市之環境保護，包括空氣、水質、噪音、廢棄物等。
 八、本市之未來發展，包括城市規劃、交通建設、產業升級等。
 本圖之編制，旨在為本市之各項建設提供參考，並為社會各界提供地理資訊。

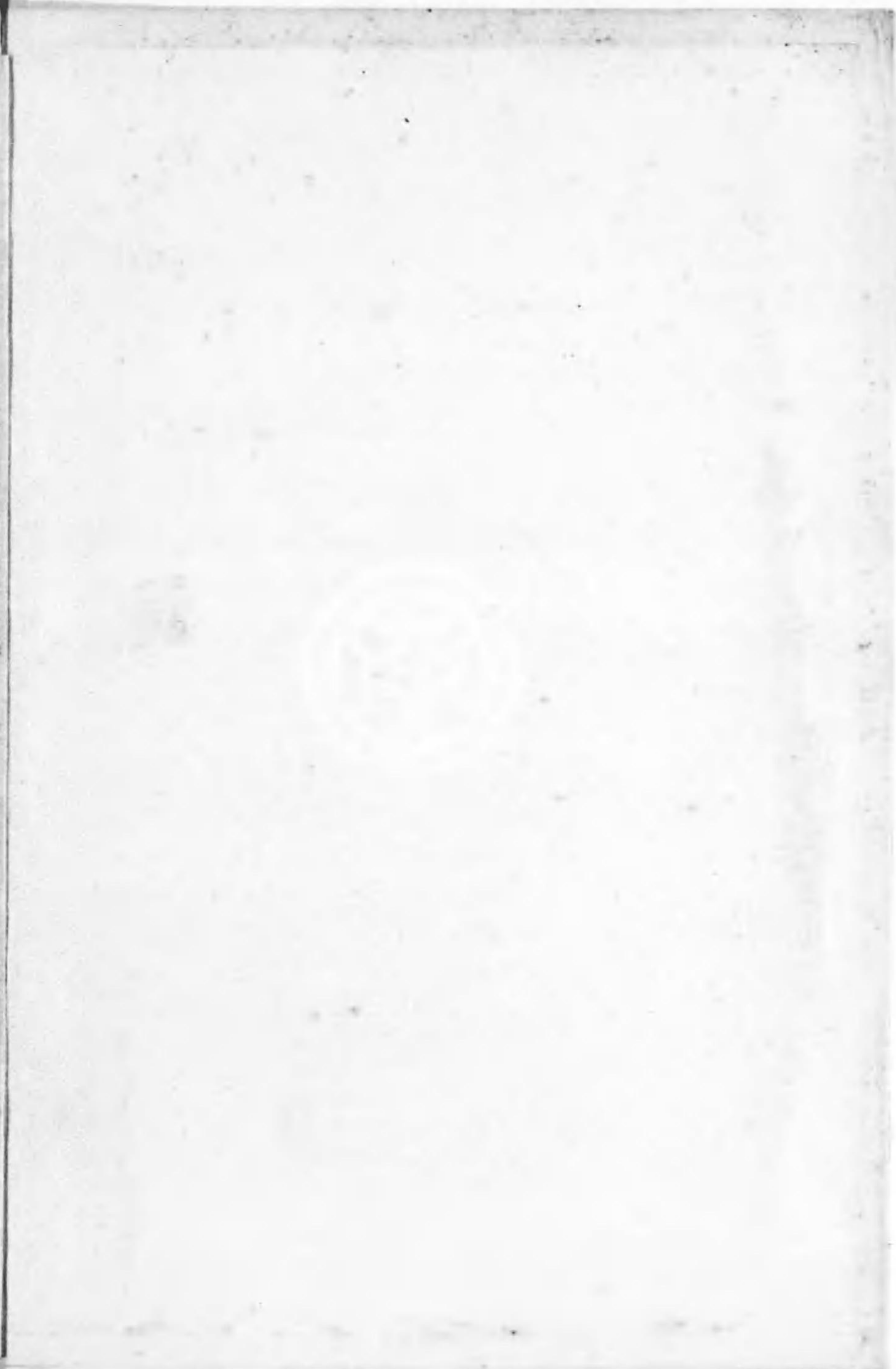


◎ 津水浮標 (3千七級四隻標置)











14. 2□-328



1200501168275

14.2a

328

終